

学校規模適正化基本方針（案）に係る  
教職員対象アンケート調査結果  
まとめ

令和 7 年 10 月

## 目次

1	意見聴取の概要	1
1.1	実施概要	1
1.2	設問内容	1
1.3	結果	2
1.3.1	校舎、運動場、屋内運動場、プールなどの学校施設について	2
	■立地・学校形態に関する意見	2
	■校舎全体に関する要望・意見	2
	■教室	4
	■屋内運動場（体育館）	9
	■運動場（グラウンド）	10
	■プール	12
	■職員室	13
	■その他施設	13
	■備品・設備等	15
	■体制・運営等、その他	19
1.3.2	開校前の小中一貫教育について	21
	■統廃合に向けた準備体制	21
	■運営体制等の検討	21
	■教職員の配置・制度	23
	■教育課程・カリキュラム・教科創設等	25
	■授業内容等	26
	■学校間の交流・連携	27
	■支援体制	29
	■日課・学期制度	29
	■学用品・備品	29
	■PTAの組織体制	30
	■通学方法	30
	■研修等	30
	■校舎・教室・備品・設備等	31
	■その他	31
1.3.3	子どもたちのために必要なこと	32
	■人員配置	32
	■支援体制等	34
	■運営体制	39

■通学	41
■校舎・施設環境	41
■その他	42
1.3.4 自由回答	44
■統廃合に向けた意見・要望等	44
■義務教育学校に向けた研修	45
■予算について	46
■北学園に関する意見	46
■その他の提案	47
■期待の声等	47

## 1 意見聴取の概要

### 1.1 実施概要

目的	学校施設整備に関して、教職員より意見を徴収するため
実施方法	町内の各小中学校に配布、回収
実施期間	～令和7年8月29日(金)
対象者	町内の小中学校に努める教職員
回答数	108件 -大野小学校：21件 -北小学校：24件 -西小学校：1件（複数人の意見を集約したもの） -東小学校：1件（複数人の意見を集約したもの） -中小学校：1件（複数人の意見を集約したもの） -南小学校：14件 -大野中学校：32件 -揖東中学校：14件

### 1.2 設問内容

1	校舎、運動場、屋内運動場、プールなどの学校施設について (個別最適化・協働の学びの充実、多様な教育ニーズへの対応など)	記述
2	開校前の小中一貫教育について (分離型小中一貫校への対応、課題、逆にアイデアなど)	記述
3	最後に子どもたちのために必要なことについて (理想的なサポート体制、不登校ゼロへの取組、こどもの居場所づくりなど)	記述
	自由記入欄	記述

## 1.3 結果

各設問の回答内容をカテゴリーごとに分類して整理した。同一内容の意見は一つにまとめ、( )内に意見数を記載する。同一意見の中でも詳細な内容に差異が見られる場合や、一つの意見に対して複数の具体的意見が挙げられている場合等は、□内に箇条書きで示した。なお、文章は原文のままではなく、一部要約している。

### 1.3.1 校舎、運動場、屋内運動場、プールなどの学校施設について

#### ■立地・学校形態

- ・立地は役場西側を希望 (2)
  - バスセンターがあり、交通の接続がよい。スクールバスとの共用も考えられる。
  - 町民センター等の利用がしやすい。(儀式的な行事や文化祭、歌声発表会等での有意義な使用方法が考えられる。)
  - 保護者用の広い駐車スペースが十分に確保できる。
  - 災害時の引き渡しもスムーズに行えるような、車の動線を考えたつくりが可能。
- ・町民センターへの移動が徒歩でできるところに設置すると便利。
- ・同一敷地内の小1校、中1校の建設を希望 (2)
  - 校舎どうしを雨の当たらない渡り廊下でつなぐ。

#### ■校舎全体

##### 素材・雰囲気・コンセプト

- ・木造で温かみがある、ぬくもりを感じる校舎 (2)
- ・木の素材が多く使われていると、雰囲気が暖かくなってよい。こどもたちも自然と触れ合いながら生活できる。
- ・開放感のある自然豊かな校舎がよい。(高い建物は避難時、生活時に不便であり、避難しやすさが重要)
- ・内容の色について、白系は汚れやほこりが非常に目立つので木目調が望ましい。
- ・思い切った近未来型の建物と施設にする。
  - 四角い教室、チョークを使う黒板、今までのような机・椅子を使わない。
  - 小集団学習を前提にした教室配置。
- ・ひとつになってよかったと思える特色のある校舎のコンセプト

## 配置・構造

- ・ 町民プール、運動場、屋内運動場、図書館等を学校隣接とし、学校優先とする。
- ・ 小学校の教室棟、中学校の教室棟、その間に特別教室や交流スペース、図書室、職員室等が入った棟があり、3つが繋がっている形。I型、H型や円形など。
- ・ 仕切りのないオープンスペース構造
- ・ 死角のない構造 (2)
  - デザイン性よりも実用性重視。問題行動の温床になる。

- ・ 校舎を拡大して教室を新設するなどして、児童生徒が活躍する場・学びの場を確保する。

## 機能面

- ・ 設立時にきれいでかっこいいだけでなく、30年後も壊れずに綺麗で修理しやすい設備を強く希望する。

- 墨をこぼしてもさっとふけてきれいになる床
- ささくれないロッカー
- 豊富な収納、掃除しやすいロッカー
- 時間が経っても汚れ（カビ・コケ）や劣化が少ない外壁
- 暖房効率を考えた設計（窓は大きすぎても小さすぎてもいけない）
- できるだけ窓の大きさは規格サイズを採用（カーテン交換や窓が割れた時に経費を抑える）
- 効率よく換気できる仕組み（感染症の予防）
- デジタル教科書を映すことも考えた広い黒板。またはホワイトボード。  
（ホワイトボードだと反射で見にくくなる可能性も考慮して採用してほしい。）

- ・ 機能面、安全性、耐久性を重視した施設、設備
- ・ 異学年と交流しやすいような校舎設計、クラス配置
- ・ 小中学生の縦割り活動がしやすい施設
- ・ 掃除が短時間で効率よくできる材質で学校を作る。

## バリアフリー、ユニバーサルデザイン、アクティブデザイン

- ・ バリアフリー化 (5)

- 校舎は平屋
- エレベーターの設置
- 段差なく入室できるドア
- 多目的トイレの全階設置（ジェンダーフリーにも対応）
- 体育館・プールへスムーズに移動できる環境および更衣スペースの確保

- ・ ユニバーサルデザイン
- ・ アクティブデザインの視点（運動量を確保せざるを得ない配置…移動教室をあえて遠くするなど）、ユニバーサルデザイン（誰にでも優しい）の視点をうまく組み合わせた教室、特別教室の配置

## 安全対策・緊急時対応

- ・熱中症対策を講じた安全な施設
  - 体育や集会など、夏の暑い時期でも授業を変更することがなく済むよう設備を充実させてほしい。
  - 実際の授業の組み合わせ方なども想定したうえで施設を検討してほしい。
- ・緊急時の対応がよりスムーズな校舎
  - 保健室と職員室を近い位置にする。
  - エレベーターを設置する。
  - ワンタッチ式の鍵を全ての教室に付ける。など
- ・不審者侵入対策に最新のセキュリティ
- ・校門を1箇所にして外部からの侵入を防止
- ・防犯システムの充実
- ・守衛室を配置し、来客、保護者の対応を行う。
- ・ICカード化（個人）を推進し、児童・生徒の出入りを確認できるようにする。
- ・校舎と運動場の配置に合わせた非常口や非常階段の設置

## ■教室

### 教室数

- ・特別支援学級の児童生徒が現状より増加することを見越して、十分なゆとりをもった教室数や配置が必要。(3)
- ・教室数に余裕をもって作ってもらい、不登校傾向の児童や教室に入るのが厳しい児童が出た場合に、緊急避難的に、もしくは恒久的に対応できる部屋を複数確保できるとよい。小さい部屋を複数か、簡単に小さく仕切ることができるような工夫があるとよい。
- ・小中別の特別教室が必要。

### 教室のつくり・空間設計

- ・教室と廊下の壁は無くし、開閉式のドアにする。(4)
  - 図工や習字の時間に机と机の間を広くとって学習活動が展開できるようにしてほしい。
  - 学習形態に応じて変えることができる。
  - 開放的かつ場合によっては机の間隔を広くとった学習ができるようにしたい。
- ・教室のスペースは広々、ゆったりと。(6)
  - 教室を広く使えるようにしてほしい。
  - グループ机がいくつもとれたり、机の間隔を広くとれたりする教室の大きさだといい。
  - 学級人数にもよるが、机と机の間が狭いこともあり、テスト対策をしっかりと行いたい。
- ・教室間の仕切は取り外し可能に。または、パーティション設備の充実。
- ・教室は中がよく見えるよう仕切を工夫する。

- ・開放的なつくり (3)

- 不審者対応がしやすい。
- ガラス張りで、圧迫感を無くす。不登校の児童生徒も今より入りやすいのでは。

- ・不審者侵入防止のため、教室内からも施錠できるようにするとよい。(2)

### ワークスペース・多目的教室

- ・ワークスペースや多目的教室などがあるとよい。(26)

- 学年全員が集まれるもの (2)
- 集会やいろいろな活動ができる部屋やスペース (2)
- 岐阜市のアゴラ教室のような、多目的に探究的、協働的な学びができる教室 (2)
- 室内集会場 (エアコン設置)
- こどもたちが多様な学びを進めることのできる教室やワークスペースが多くあるとよい。
- 教室の前にワークスペース (2)
- 池田町の温知小のようなつくりがよい。
- 学年ごとに設置 (5)
- (学年ごとが難しければ、) 学年部ごとに備えてほしい。
- フロアごとに設置 (2)
- 複数の学級が一緒に活動できる。
- 異学年交流ができる。(2)
- 廊下に設置 (3)
- コミュニティ広場を多めにつくっていろんな学年の生徒が関われるようにしてほしい。
- 多目的室など、生徒が自由に入出入りして、活動的な学びを仕組める場があるとよい。(昼休みなどに将棋やオセロなど頭の体操ができるスペースなど)

### 支援・個別対応が可能な教室

- ・フリーに使える空き教室があると、様々な活用が可能。(3)

- 児童生徒の個別対応、学習の個別支援
- 支援が必要な児童のクールダウンの場
- 教室にいられなくなった児童の避難場所
- 教育相談で話を聞く場
- 生徒指導やリーダー指導
- 学用品等の整理など

- ・様々な支援の必要な子にも対応できるように、自由度の高いスペースや部屋があるとよい。
- ・個別指導ができる教室、空間があるとよい。
- ・個別のブースがあるような教室があるとよい。
- ・所属するクラスの教室 (ホームルーム) 以外に、少人数に対応した広さの教室や、個別スペースが

準備された空間が必要に思う。

- ・不登校傾向の児童や集団で生活することがつらくなった児童が安心できる部屋の設置 (2)
- ・別支援教育の指導体制を構築する教室及び設備の充実を図る。  
※知的、情緒学級に所属する児童生徒が安心して生活できるよう広くゆとりをもたせ、フロアにワークスペース併設して作業活動ができるようにする。クールダウン等、リラックスができる空間を併設する。
- ・教室に入れない児童・クールダウンを必要とする児童に対応した個室等の配置 (2)
- ・別室登校児童用の教室
- ・不登校児童が外から入れる教育支援センター
- ・不登校生徒等対応の適応指導教室 (校内教育支援センター) を前・後期課程別々に設置する。  
※専門教諭、SC、S相、SSW、医療機関、町教委の子育て支援課・福祉課等との連携・協働
- ・教育相談室 (何部屋か) 設置 (3)
- ・相談室やカウンセリングルームは、玄関や教室の前を通らなくてもいい所に設置。
- ・相談室や個別での学習部屋は、ガラスで中が見えるようにする。
- ・タイプの違う児童生徒を別室で対応できるような部屋が必要。または、仕切などで学習できる広さの部屋があるとよい。
- ・通級教室や教育相談的な教室は多ければ多いほど良さそう。個別支援の対応が多岐に渡りすぎているため。
- ・通級教室も普通教室ぐらい大きさがあるとよい。複数人での授業も想定していく。
- ・通級学級はカーペット部分があるとよい。一部分で靴を脱いでの学習活動もあるとよい。
- ・支援学級の設置場所は、交流学級と隔てる方向がよいか、逆に近い方がよいか。
- ・各特別支援学級の教室横に小さな小部屋を併設するとよい。様々な使い方ができる。
- ・難聴教室を設置 (2)

- 前期課程と後期課程の教室配置から場所を検討。
- 現在の教室は資料室を転用したもので狭い。
- 現在は廊下の北側にあり、南側に面した大きな窓がなく採光・喚起・開放感に欠ける。
- 現在は出入口が1箇所のみ。不審者対策としても2箇所必要。
- 現在はドア式のため、教室移動で筆記用具や物を持ってドアを開け閉めすることが難しい。一般教室のような窓、引き戸がよい。
- 現在は北風が吹き込み寒いので、廊下の南側に作るべき。
- 緊急時に光の点滅と音で知らせる赤色灯(できれば火災か地震か不審者か分かるように文字表示か2色の異なる発行色があるとよい)。画用紙の保管棚(収納箱)、手洗い場、備え付け大型モニター、室内Wi-Fi設備が必要。
- 防音カーペット、ホワイトボード(黒板だとチョークの音が耳障りになるため)が必要。

- ・日本語指導が必要な児童の取り出し指導ができる教室またはスペースがあると、落ち着いて生活できると思う。取り出し指導は、日本語指導だけでなく、生徒指導や心の相談に応じて行っている。その時安心して学習できる居場所はとても大切。

## 特別教室・付随施設

- ・小・中学生が共有できる特別教室（外国語活動教室や理科室、音楽室、視聴覚室など）を設置し、教科担任制がより生きる学習環境になるとよいと思います。
- ・小中別の特別教室が必要。
- ・音楽室や理科室も、2部屋あるとよいと思う。
- ・授業内で合唱などの様子を録画・再生し、練り上げに活かしていけるような音楽室の設備。
- ・理科準備室にも、ガス、水道の設備が欲しい。
- ・家庭科室及び理科室は前期課程と後期課程で作業台の高さが異なるので注意。
- ・外国語学習室を設置する。(2)
- ・学校の一角に「地域ステーション」の部屋を置き、地域の方が活動・雑話できるスペースを確保することで、地域の方が学校の教育活動に容易に関われるようにする。
- ・日本文化を学べる部屋の設置  
例) 畳の部屋（抹茶や華道などを中心に日本文化を感じられる部屋）
- ・保健室は2つ（職員室に隣接する保健室と、運動場や体育館から近いところにある保健室）
- ・児童会室
- ・体育館に併設した全校生徒が入ることができる講堂。床に一定時間座ることに負担を感じる生徒が増えたため。
- ・個別最適な学びと協働的な学びができる教室のスペースの工夫をする。  
※協働的な学びができるスペースを確保するために広くゆとりをもたせ、様々な学習形態に対応できるようにする。
- ・学び合いの部屋（円卓を配置）の設置。
- ・協働の学びとして他の地域や国とのグローバルな交流できる ICT 設備のある特別教室
- ・少人数指導、小集団学習に適した教室 (2)
- ・職員室のそばで生徒指導やオンライン研修ができる小部屋をいくつか
- ・会議室やミーティングルームなどの場所もいくつか作り、防災の拠点となるようにしてはどうか。
- ・大会議室（50名程度）1つ、中会議室（30名程度）を1つ、小会議室（10名程度）を2つほど設置する。
- ・なないろにあるようなプレイルームがあるとよい。吊り遊具やボルダリングのような壁面など、子ども達がいろいろな動きを体得できるような設備があるとよい。
- ・リラックスルームや、ソファ、カーペットの床で活動できる部屋など、多種多様な部屋をつくとよい。
- ・ランチルームは不要 (4)

- 各教室で給食を食べる。
- 全校一斉より、教室の方が指導しやすい。

## 備品・設備

- ・大型モニターを各教室に設置 (6)

- 天井から吊るす。
- 壁に設置
- 移動式・可動式
- ミラーリングせずに使えるタイプ
- 大きく見やすいもの

- ・モニターは、移動できる大きなものが嬉しい。
- ・プロジェクター/スクリーンを各教室に設置 (4)

- 天井に設置
- 大型モニターは画面が小さいため教室の後方の席からは見づらい。
- 前面中央にしてほしい。

- ・電子黒板の設置 (3)

- モニターだと画面が小さいため、ICT を使いづらいと感ずることがある。
- ミラーリングではなく、電子黒板に直接書き込めるようにしてほしい。

- ・黒板ではなくホワイトボード (4)

- 黒板であると、掃除が大変であったり、プロジェクターが写せなかったりする。ホワイトボードであれば、天井にプロジェクターがあれば、画面を写せるし、掃除もしやすい。2枚にして移動できるようにしたい。

- ・全教室ホワイトボード&大画面モニター

- ・全ての教室にプロジェクター、電子黒板などの ICT 機器の完備 (2)

- ・黒板は、上下に可動式で、高さ調整ができるとよい。(4)

- ・教室の予定黒板は、警報が発表される可能性も考慮して2日分の予定を書き込めるものを希望。

- ・各教室に内線/インターホンの設置 (6)

- 職員室を通さなくても教室間で連絡できるとありがたい。
- 緊急時などに迅速に対応できる。

- ・教室内は AI で制御可能

- ・各教室にエアコンの設置 (3)

- ・教室内の温度が均等になるような設備を希望。

- ・夏場に窓を開けて常時喚起をするとエアコンの冷気が逃げてしまい、教室内の温度が上がってしまうので、換気システムを導入してほしい。

- ・各教室もしくは、ワークスペースにタブレット保管庫があればうれしい。

- ・ワークスペースにレインコート、ネックリングをかける場所や冷蔵庫があるといい。ヨーグルトやアイス系などの4時間目の一時保管場所としてあるといい。

- ・各教室に水道があるとうれしい。

- ・教室内には最小限の掲示板でよい。(ユニバーサルデザインの観点から)

- ・特別支援学級専用教室及び設備として、中机やロッカー、PC 設備

- ・1階の教室は、その教室から出入りできるように教室に下足箱を設置してほしい。(下駄箱の分散化)

## ■屋内運動場（体育館）

### 規模・数・構造

- ・2箇所（2）
  - 大と小
  - 前期課程と後期課程用の2つが必要。または低学年（1～3年）用の遊戯室（運動ができるタイプ）
  - 小学校、中学校別であると、時間割を組みやすい。
- ・2階建て（3）
- ・1時間に複数のクラスが体育の授業で重なっても活動ができるように、体育館を大きくするとよい。
- ・大野中体育館のサイズは欲しい。
- ・小学生・中学生のカリキュラムやサイズに合わせたものになるとよい。
- ・小中どちらも対応できる規模であるとよい。
- ・十分な広さを完備した体育館。(バスケットボール、バレーボールコートを2面作ることができる。)
- ・バスケットボールコートが最低2面
- ・小中それぞれ体育の時間が必要であり、体育館の広さ、何か所使えるのか、はとても重要。大野中体育館の大きさがあっても、全ての学年の授業はできないと思う。

### 空調設備

- ・冷暖房を設置してほしい（60）
  - 熱中症対策として必要
    - ・夏場も安全に使えるように
    - ・夏場は温度が高く使用できない為、年間を通して実技の時間を確保できるように
    - ・熱中症警戒アラートが原因で体育の授業内容が変更になると、生徒たちがイライラしてしまう。
  - 災害時の避難場所として必要
- ・雨天時や熱中症の危険のある時期を考えると、体育のできる体育館に準ずる冷暖房が完備された場所が2箇所以上あるとよい。

### 構造・付随施設等

- ・マルチに活用できるものであるとよいと思う。
- ・ホールとしても使用可能なギャラリーを。
- ・剣道場や柔道場などの複数の運動施設があった方がよい。
- ・各闘技場、体操場（体操用の床）
- ・アリーナの他に、柔剣道場、卓球場、更衣室が必要。

- ・ミニ体育館教室をつくる。
- ・屋内運動場（体育館の下部）を設置
- ・放課後クラブや多目的教室を併設した複合施設化で、授業以外にも、地域利用できるようにする。
- ・蝙蝠（コウモリ）やハトが巣をつくらない構造
- ・体育館に廊下でつながっていて扉の施錠で分離できる仕組みはとても便利。

### その他

- ・体育館以外にも、運動できるスペースを校舎内に設置してほしい。
- ・年齢に合った運動ができるような環境の配慮があるとよい。
- ・照明や運動器具などの衛生面に配慮してほしい。
- ・バスケットゴールは、小中で違うので、高さ調整できるものがよい。

## ■運動場（グラウンド）

### 規模・構造

- ・安全を考え、ある程度年齢別に活用するスペースを分けるとよい。
- ・複数あると、低学年の活動から部活動まで、けがやトラブルなく使える。(2)
- ・2つあるとよい。(7)
  - 第1運動場と第2運動場に分ける。
  - 小学校と中学校で分ける。
  - 分けることで時間割が組みやすい。
- ・第3まで作ってほしい。
- ・スペースを変化させて利用できるとよい。
- ・(複数ない場合) 明確な境があるとよい。
- ・部活動が地域移行するため、部活で使う運動施設（テニスコート、サッカー場）としてはつくらなくてよい。
- ・小中どちらも対応できる規模であるとよい。
- ・100m走を横でできるグラウンドの広さ
- ・グラウンドを広くし、200m以上のトラックや充実した遊具があり、公園のように遊べる場所であるとよい。
- ・メイン運動場の他にサブグラウンドをつくって多様に使えるようにする。(運動会のことを考えると、競技用トラックが2面必要になるのでは?)

### 機能・設備等

- ・水はけがよい土 (4)
- ・除草の必要がないとよい (4)
  - 草が生えにくい土
  - 人工芝 → 安全性も高く、低学年や運動が苦手な子も安心

- ・コースが分かるロープや目印
- ・屋根の設置
- ・屋根付き回廊スペース（北学園の第2体育館のようなもの）があると、日よけスペース及び運動会の本部にでき、テントを張る必要がなくなる。
- ・スプリンクラーの設置
- ・外で子どもたちが遊んだり、体育の授業を快適に受けられたりするような、涼しい工夫
- ・部室と倉庫の設置
- ・引き渡し訓練時に車の流れがスムーズに行えるような、周辺道路との連結を加味した出入り口
- ・テニスコートの設置
- ・ドクターヘリが離着陸できるスペースの確保
- ・状況に応じて移動・変化させられる器具や設備
  - 固定のバスケットボールの下に可動式のサッカーゴールを置く、可動式のブロックを置く、など
  - 子どもたちの創造性や自主性が高まる
- ・運動場（通常グラウンドの隣に、屋根のある活動ができる広場）
- ・一部がアスレチック場のようにタイムトライアルなどができるコースだと、子どもたちが積極的に外に出て遊ぶようになるのでは。
- ・マルチに活用できるものにする。
  - 全天候型
  - 芝生化（人工芝の方が管理は楽）
  - 屋根の設置 など
- ・現存するものを町の施設として、活用しやすいものに変化させるのもよいと思う。

## その他

- ・年齢にあった運動ができるような環境の配慮があるとよい。
- ・小学生と中学生では体格差も広がるため、休み時間に同じ運動場で遊んでいると危険ではないか心配。
- ・（部活動の）地域移行を行っているが、地域クラブのサッカー、野球などの外部活、吹奏楽などの室内部活がそれぞれ活動できる場所が、学校を含めいろんな場所で確保され、活動しやすい環境になってほしい。特に、野球のレインボーの活用、大野メープルの人工芝化など合わせて町全体の資源を活用できる方法を考えてほしい。

## ■ プール

### 設置・運営

- ・学校施設である必要はなく、地域への開放も視野に入れ、先生方の負担にならないよう管理ができるようにしてほしい。
- ・プールは必要か。水の管理を考えても設備をつくるのは大変に思われる。
- ・プールは町管理とする。
- ・プールは設置せず、町施設等（「ゆ〜みんぐ」または「ルネッサンス」）を利用。（24）

#### （理由）

- 維持管理や安全管理などのコストが高い。
- （室内のため）熱中症対策になる。
- プールを作るお金、維持のお金、命に係わるリスクを考えると、町施設を利用する方がよい。

#### （具体的な意見）

- 小学生は年間 10 回程度水泳の学習ができるとよい。
- 希望者に夏の水泳教室を行うこともできるのではないか。施設の活用ということにおいても充実すると考える。
- バス移送を行って学習するようにはどうか。

- ・「ゆ〜みんぐ」の活用は考えられるが、計画的に利用できないとやっつけになる。水泳の授業として利用するならば、評価可能相当の時数の確保は必須。
- ・指導は業者委託し、教員は安全面の見守りに徹するのがよい。（7）
- ・プールは 6〜7 月のごく短い期間しか使わないのに非常に高価な施設だが、泳げない町民を増やして将来の事故が増加してよいかどうかを考えると作ってほしい。
- ・できるなら管理指定業者による屋内プールをつくり、管理を任せるとよい。
- ・プールは民間利用も考慮する。

### 規模・設備・その他

- ・屋内に設置する。（11）

- 天候に左右されない。
- 年間を通して使える。
- 特別支援学級の児童がいつでも練習できるとよい。

- ・小中別が望ましい。
- ・広く、少し深いプールがあるとよい。低中学年用、中高学年用、中学生用の 3 段階に分ける。
- ・プールサイドでの火傷対策（3）

- 屋根
- 足裏日焼け対策をしたシート
- 巻取り式の人工芝

- ・猛暑日でも使えるよう、水温調整や開閉できる屋根の設置
- ・屋根付きだとよい。鳥の糞や枯草、虫の対策にもなる。

- ・熱中症対策が施されているとよい。屋根をつけて日陰のスペースを作る、など。
- ・日よけの設置
- ・前期課程用と後期課程用の設置基準を満たすものが必要となる。
- ・時計
- ・可動床で水深を調整し、学年・泳力差に対応できるようにする。
- ・人員を豊富にしてほしい。
- ・職員室や保健室などに直結する内線電話を設置。
- ・フェンスにタオルをかけるバーなどを設置。
- ・近年、運動不足、泳げないこどもの増加が気になるので、体育の授業で泳げるこどもを増やしたい。

## ■職員室

- ・校長室や職員室の収納スペースを多くする。また、機能的で新しい机、サイドチェストを入れる。
- ・「ミニ職員室」のような場所が各フロアにあるとよい。(2)
  - 職員の教材等のものを置く場所や少しの時間滞在できる場所、待機場所として。
  - 何かトラブルがあったときに、すぐに教室に行くことができる。
- ・職員室および1階の教室は、緊急時に運動場に入りができるようにする。
- ・職員室に印刷室をつくる。(PTAが使う場合は、廊下から印刷室へ入れるように廊下側にドアを設置。)
- ・職員室内に先生がくつろげる談話スペースが複数あるとよい。
- ・職員用休憩室。

## ■その他施設

### 図書室

- ・低学年用・高学年用の図書室
- ・低学年用の図書室があるとよい。(2)
- ・低学年の児童が寝転んで、ゆったりと本を開くことができるスペース
- ・図書室は教室から近い方がありがたい。
- ・校舎中央に図書室やラーニングコモンズをつくる。
- ・図書室を岐阜市の「メディアコスモス」のようにできるとよい。(2)
  - 図書室の中に会話と作業ができるスペース（もしくは仕切のある部屋）があるとよい。  
楽しい図書室には自然と足が向くようになり、読書の習慣も身に付きやすくなる。
- ・図書にバーコードを入れてほしい。
- ・ネット上に借りたもの返したものが記録できるシステム
- ・本が多くあり、たくさん読みたいと思える場所だとよい。

## 保健室

### ・2 部屋設置する。(8)

- 小・中学校 1 部屋ずつ必要。
- 小・中学生対応の養護教諭を分けて 2 名で対応。
- 小学生と中学生の発達段階は異なるため

### ・トイレ、シャワー室の設置 (4)

- シャワー室は、おもらししてしまった児童を洗ってあげるため。
- トイレは体調不良者や嘔吐の児童生徒がトイレに行きたい時に、トイレへついていくと保健室から離れないといけなくなるため。

### ・足洗い場の設置

- 外で転んで擦り傷と作った場合など、流水で流すと外の水道では靴や靴下まで濡らしてしまい、低学年では上手く洗えないため。

### ・洗濯機の設置 (2)

- ・冷蔵庫、収納型ベッドの設置
- ・中央に位置し、体育館や運動場に近くする。
- ・風通しや採光が良く静かな場所
- ・職員室の近く/となり (2)

## 自然学習環境

### ・敷地内に栽培できる場所 (畑・農園) や植物を確保する。(4)

- 学習活動を行う時によい。
- 畑の近くには水道を整備する。
- 学年用栽培地 (畑)
- 農園を併設し、生活科や総合的な学習の時間に活用する。

### ・教育課程の中で栽培する植物や各教科の活動内容について考慮したづくり

- 例) あさがおの鉢→1 年生教室からすぐに水やりに行ける場所・観察しやすい所
- 野菜→2 年生の野菜の栽培も同様
- 3~6 年や特別支援学級の場合は、学年の畑があるとよい

### ・ビオトープがあるとよい (4)

- 生き物や自然に触れることができる場所が運動場にあるとよい。
- 継続する樹木等の管理を考慮したビオトープの設置
- 池もあって、メダカやヤゴなど水中生物がたくさんいるようなビオトープが、小中どちらにも欲しい。
- 校舎のすぐ近くにあり、授業中に行けて、戻ってこられて…という場所にして、みんなで管理する場所にしたらよい。

### 遊び・運動環境

- ・校舎内外で思いっきり遊ぶことができるスペースがあるとよい。安全面には配慮した屋内遊具などもあると、熱中症や天候に左右されずに体を動かすことを楽しめる。
- ・低学年の感覚統合を進めるために、ブランコをたくさん設置する。ジャングルジムも置いてほしい。
- ・体がのびのびと動かせるような遊具も設置してほしい。
- ・オムニテニスコート
- ・テニスコート（4面）
- ・屋外でバレーボール、バスケットボールができるコート（2面）

### その他

- ・敷地内もしくは隣接地に放課後児童クラブや児童館（共に指定管理）を設置。

## ■備品・設備等

### 机・椅子

- ・広い机（5）
  - 現在のものよりも一回り大きく
  - A4 がゆったりと入る大きさ
- ・机は調整のしやすいものに新調し、経年劣化による様々なトラブルの要因を除けるとよい。
- ・高さ替えが簡単にできる机と椅子がよい。
- ・児童用の椅子は、軽く、簡単に高さが調整できるもの
- ・自分固定の机、椅子は廃止する。

### ロッカー

- ・個人ロッカーがあるとよい（7）
  - 一人一人の持ち物を、十分に保管管理整理整頓できるロッカースペース
  - 小学生のロッカーサイズは、ランドセルのサイズをもとにつくってほしい。
  - 自分の持ち物（ランドセル、絵具、習字道具、教科書類）を一つにまとめられると便利。
  - 生徒のロッカーは廊下設置で、鍵をかけられるようなものがよい。
  - ロッカーは透明の扉に鍵があるとよい。
  - 防犯面や管理面でしっかりと自分の持ち物を学校に保管できる環境があると、たくさんの持ち物を生徒が持つ必要がなくなる。
- ・各々の教室用のロッカーも大きく

### ICT 学習環境

- ・プロジェクター等、ICT 機器の活用をしやすい設備
- ・Wi-Fi 完備
- ・Wi-Fi 環境を整えて、体育館や屋内運動場でもインターネットに繋がるようにしてほしい。

- ・インターネットを使いやすいように整備し、ビデオなど調べ学習、国際交流が可能な設備を整える。
- ・ミラーリングをもっとスムーズにトラブルなくできるようになってほしい。
- ・全教科でデジタル教科書が利用できる。
- ・生徒 1 人ひとりに貸与されるタブレットに、全ての教科書、ノートを入れてほしい。現在の生徒は 10 kg 以上のかばんで通学しており、早急な改善が必要である。
- ・ロイロノートが利用できる (5)

### 衛生環境・安全・防災

- ・内線の設置 (特別教室含むすべての教室、体育館、プール)
- ・災害時の避難場所として機能しやすいづくり (災害用のベンチや下水道と直結したマンホールなど)
- ・非常時の引き渡しスムーズに行われるような車の動線を考えた外回り。
- ・防犯対策を徹底
- ・不審者対策のセキュリティーシステムの導入
- ・職員室及び 1 階の教室は緊急時に教室から運動場に入出りができるようにする。
- ・AED を複数設置 (2)
  - 体育館、北校舎、南校舎と設置してほしい。
  - 可能であれば、各棟各階に設置
- ・冷水器や児童用の冷凍庫などの熱中症対策
- ・手洗い場、水道栓を増やしてほしい。(3)
  - コロナ禍で少なさを痛感
  - 歯磨きができるように
  - 児童生徒の健康面のため
- ・給食後の歯磨きをさせるのかどうかで、洗面スペースの数が変わってくる。
- ・シャワー室に汚物処理用の流しを設置 (トイレ失敗の際の処理に)

### トイレ

- ・多目的トイレの充実 (3)
  - 各階に設置
  - 全ての男女トイレに併設
  - 車椅子だけでなく、ジェンダーフリーにも対応
- ・トイレはバリアフリーでスリッパをはき替えないタイプがよい。
- ・男子トイレについて、プライバシーへの配慮があるとよい。
- ・トイレや水場は、掃除のしやすさや汚れの落ちやすさ等にも焦点を当てた設備を希望
- ・トイレの床の色は白系以外がよい。(白は汚れがひどく落ちない)
- ・トイレの床は、汚れが目立ちにくく拭き掃除がしやすいものがよい。
- ・明るいトイレ
- ・温暖便座

## 空調設備

- ・校舎全体に空調設備・冷暖房を設置（廊下、各教室、体育館、プールを含む屋内運動施設）（9）
- ・室外機は直射日光が当たらず、風を遮るものに近すぎない場所に設置する。（北小学校では、室外機がおかれているベランダの幅が狭く、空気の循環ができないせいでエアコンは壊れていないのに温度が下がらない事態が度々発生している。）

## 窓・網戸・環境整備

- ・児童が落ちない高さ大きさの窓
- ・網戸をつけてほしい。（3）
  - 網戸がないと、換気時に蜂や鳥が入ってくるため。
- ・断熱壁
- ・床暖房
- ・遮光遮熱カーテン

## エレベーター・スロープ

- ・エレベーターの設置（13）

- 肢体不自由の児童生徒など、階段の昇降が難しいこどもへの対応のため
- 足を骨折した児童生徒が教室を移動するため
- 過去に酸素ボンベをもって登校しなければならない生徒が出た時にエレベーターがあったことは大変良かった。
- 必要であれば複数基
- 給食のため

- ・スロープの設置（2）

## バス乗降場・駐車場・送迎スペース

- ・通学バスの乗り降りをするバスターミナルのスペース確保が必要
- ・校舎からバスターミナルへ、雨天時でもスムーズに移動できる屋根付き通路の整備が必要である。
- ・停留所にバスを待てるような屋根のある場所があるとよい。
- ・保護者専用駐車場の確保
- ・保護者の車が入りやすい駐車場の確保
- ・多数の送迎に対応できる駐車場やドライブスルーの昇降口
- ・安全面に配慮し、児童の引き渡しがしやすい駐車場の設置
- ・登下校の送迎専用スペースで、道路渋滞対策
- ・敷地内に職員用駐車場
- ・駐車場に坂をつくらない。

## 事務関連

- ・1人1台、校内用携帯電話があるとよい。（2）

- 緊急時に迅速に連絡が取りあえる。

- ・事務室を1室設置してほしい（事務職員が複数配置となるため）

- ・文書保管のための部屋と、文書を整理するための書庫等を設置してほしい。(2)

- 文書の保管が1年から永久保存のものまであり、町内の8校の文書が集まると膨大な量となるため。

- ・消耗品等の保管するための部屋を1室確保できるとありがたい。
- ・印刷室は、職員室と近くの広い部屋にしてほしい。(印刷機、拡大機、裁断機、用紙保管棚などが一部屋で収まるようなスペースを確保)
- ・コピー機、プリンタ、をカード式で操作できるようなものが欲しい。
- ・オルフィスが前期課程と後期課程用に2台あると便利。
- ・日直業務が簡単にできるように、鍵は手の届くところに付けてほしい。

## その他

- ・低学年でも使いやすい掃除用具入れを設置。(2)
- ・体育の授業で使う備品を充実させてほしい。
- ・体育館、プールへもスムーズに移動できる環境及び更衣スペースの確保
- ・児童用更衣室の設置
- ・給食配膳室は、前期課程用と後期課程用の2か所必要。
- ・教室で給食時間の場合、各階の配膳室には各々冷凍冷蔵庫
- ・校舎内の掲示板は必要最低限に。
- ・天体観測ドームを屋上に設置。
- ・ごみを分別して捨てられるような場所
- ・風の向きによっては防砂林が必要(周辺地への影響を考える)
- ・国旗、町旗、校旗掲揚塔の設置
- ・松脂で車が壊れるため、松は植えない。
- ・落ち葉の管理や害虫の事も考えて植物を植える。
- ・樹木は大切であるが、草があまり生えてこないとありがたい。
- ・雑草の管理が大変なため、校内に必要以上の緑地は設けない。
- ・植える樹木は、四季を感じられるものがよい。

- 春には桜、もみじ、いちょう、どんぐりの木(種類もいくつか) マツ、オナモミなどの服にくっつく植物、紫露草、柿とばら…小学校の低学年が季節の植物であそんだり、学習をすすめたりできる林、中学生が生物の学習を進めることができる環境が欲しい。

- ・鳥が巣をつくらないようにつくり

## ■体制・運営等、その他

### 授業体制

- ・教科の先生が常駐する教室に生徒が移動して授業を受ける大学のような方式（教科センター方式）がよい。(3)

- 岐阜聖徳学園大学附属中学校で導入されている。
- 生徒が荷物を置き、朝・帰りの会のみホームベースで行い、授業は各教科の教室に移動して受ける。
- 各教科に必要な物も教科のブースにおいてあるため、生徒が主体的に学ぶことができる。
- 児童生徒は自らが学びに行くという自覚が強くなる。

- ・算数・数学以外の教科にも少人数学習を取り入れて、個に応じた支援の幅が広げられたりするとよい。
- ・小学校からの教科担任制に賛成。(2)

- 教師の専門性を生かした授業は、生徒にとって学びの多いものになると思う。
- 担任の負担も少なくなるし、専門的に学ぶことができる。

- ・担任制を廃止するとよい。もしくは、2人担任制にして1人の負担を減らす。

### 支援・相談体制

- ・校内教育支援センターの設置(4)

- 不登校傾向児や集団適応が難しい児童が安心できる校内教育支援センター
- 仕切がある場所と円卓のある場所
- 先進校の構造を見習う
- 小・中学生別々に新設し、専門教諭を常時配属、SC、医療機関等との連携及び対応の充実

- ・スクールカウンセラーや相談員の配置(2)
- ・不登校傾向の児童や集団で生活することがつらくなった児童に対応する職員を配置してほしい。
- ・特別支援教育専門教諭を含めた指導支援の充実。
- ・外国人児童生徒及び保護者対応の支援員を常時配属し、担任及び教科担当との連携
- ・今後、個別の支援が必要なこどもが一層増えることが予想されるため、対応するサポートが必要であり、支援学級の在り方やクラス編成の範囲などの吟味が必要。

### 部活動

- ・揖東中の「管弦楽部」は今後どのようにしていくとよいのか、大きな課題である。魅力的な存在ではあるが、町内には吹奏楽のクラブがある。
- ・部活（吹奏楽部）は今後どうするのか。大野ジュニアウインドオーケストラが立ち上がっているため、吹奏楽部に関する施設や設備は今後考慮する必要はないのか。練習場所が学校に戻る可能性はあるのか。それに伴い、音楽室の規模や部屋数も変わってくる。
- ・吹奏楽部の教室は校舎と別にあると、土日の活動時に校舎に入る必要がなくなるのでよい。

### 学校運営

- ・奈良県の天理市の取組のように、外部機関（もしくは大野町役場）による生徒指導部を置き、直接的な保護者対応、電話対応を一括する部署を新たに設置する。担任が直接生徒指導時に保護者と対峙することがないようにする。
- ・生徒の学習活動以外でのタブレットの使用を制限する工夫
- ・全校の全ての児童生徒で同じ日課を希望
- ・スクールバスの導入は必要。距離のこともあるが、夏場の登下校の熱中症の心配については保護者からも伺っている。
- ・低学年は、無理だが、モップ掃除や掃除機を主流にできるとよい。雑巾かけは、必要最小限で。
- ・給食関係の仕事をしていただく職員が必要。現在は職員のボランティアがあるが。
- ・近年の災害の多さを考えると、町民の方々の避難場所としての準備を向上していけるとよい。

### 廃校舎

- ・合併前に、各校の屋内運動場には災害時にも利用できるような冷暖房施設を導入してほしい。廃校後も利用があると思われるため。
- ・廃校となった学校を活用して、不登校傾向の児童が安心して通える学校をつくれぬか。現在は相談室や給食を食べる場所、教員が不足している。

### その他意見

- ・地域との交流活動の大切さを以前から言われていますが、防災を軸にして、備蓄、人の動き（避難経路・役割分担など）などについて考えて、町内の施設の有効活用を図れるとよい。
- ・現状とくに小学校では、各学校で人数の偏りや学級数によって差があるため、中学校に進学した時に小学校での学校生活についての差があり、生活面について難しさを感じている子が多くいるのではないかと感じる。

### 1.3.2 開校前の小中一貫教育について

#### ■統廃合に向けた準備体制

- ・統合に向けた準備会 2028 年度には立ち上げ、いくつかの部会を設置して、その役割を明確にし、統合後の学校のあり方、教育課程等について話し合いを進めておく。
- ・親の意見、クレームを受け付ける対応窓口を作る。全て教員で請け負っていたら時間がかかったり、負担が増えたりするため、少しでもそのような時間を減らしていくため。
- ・大野町教育会の再編。授業部会や総合学習部会など、(検討事項の) 重要な部分を見極め、まずは統廃合に向けて、本当に必要な部会をつくる。そしてそれぞれにミッションを与え、課題解決のための対話する集団としたい。
- ・令和 9 年以降、統廃合の準備委員会を設置。各校の教育計画作成の時点で、小、中それぞれに時程をそろえる、学期制をそろえる、PTA にかかわる役職や内容をそろえて整理するなど、義務教育学校化のための地ならしを順次行う。

#### ■運営体制等の検討

##### 統一・連携

- ・どんな子ども達を育成したいか？を明確にする。方法論等、枝葉のことは後からでも整えることができる。
- ・学び・学び方のつながりを、今後全 8 校で整えていく。
- ・学校経営方針や、指導の重点をそろえていく。新しい学校の教育目標の構想を練っておく。
- ・教育面、生活面において、取組や指導方法を統一する。

##### (統一する事項)

- |             |   |
|-------------|---|
| - 学校の教育目標   | - 家庭学習  |
| - 学習規律や学習習慣 | - 各校の取組   |
| - 指導方法      | - 生活指導（髪型や持ち物等の指導基準、特に児童養護学校を要する学校とそうでない学校との意識のずれをなくす。） |
| - カリキュラム    | - 下校方法  |
| - 時間割       | - 行事  |
| - 約束事       |   |
| - 宿題・課題     |   |
| - 総合的な学習    |   |

##### (進め方)

- 各学校の担当が集まって話し合いを十分に進めなければならない。
- すり合わせが必要な部分と、新たに創っていく部分があると思うが、十分に話し合って進めていけるとよい。
- 保護者が納得できる統一したやり方と説明
- 大野町の小中一貫教育として、大切にしている根幹を教育委員会、教員、職員、サポートスタッフ、児童、生徒、保護者、地域関係者の意見交換とすり合わせ、共通理解をはかり、コンセプトや長期、中期展望に立ち、優先順位を明確にするとよいと思う。

- ちょっとしたことでも統一できるものは今から統一していくとよい。
- 生徒に考えさせるよい機会になる。
- 教職員間での情報共有や合同研修を行う。
- 広く意見を募って、大いに議論すべき。

- ・掃除や給食など小中学校で共通している活動は小学校内で統一したり、指導を厳しくしたりしてほしい。(ほうきや雑巾の扱い方、掃除中のルール、給食配膳中のマナーなど)
- ・情報共有と、スタンスの一致
- ・時間、生徒指導などの小中での一貫した教育をする。情報共有をしながら連携して行っていく。
- ・学習指導、児童生徒指導、児童生徒会に関わる情報交流、共有及び連携指導の在り方の検討部会
- ・大野中校区、揖東中校区で、小中の英語接続や、保健体育の接続、各教科の小集団による学び合いなどを少しずつそろえて整備。教師の研鑽次第で授業は改善する。義務教育学校となったとき、所属するのは既存の大野町内の先生。先生方を啓発していく。今年度の町研での提案もその一つである。
- ・小中教員の連携
- ・2校以上合同で地域学習を進め、何を残すか検討していったらどうか。

### 教育体制

- ・今まで培われた大野町の特色ある教育を継続していくことは大切である。
- ・ふるさと大野町を愛する児童生徒を育成するための総合的な学習の時間の実施（白川郷学園の村民学のようなもの）
- ・個別指導の充実。同じ教室内にもレベルの差は必ず生じるため、苦手な子に対して個別指導できるような環境、人員配置をする。また、特性のあるこどもに対しての対応ができるようにするとよい。
- ・塾のいない学校づくり。より高度な勉強をするために、先の勉強をするために塾に通っている子が多いと思う。しかし、そうではなく学校で学んでいけば十分だと思ってもらえるような授業を展開できる学校を作っていかなければいけない。それは、教師の力も必要だが、学校の制度としても、選択型授業や自由進度学習、個別指導を充実させていかないと実現はできないと思う。
- ・当たり前だが、児童生徒だけでなく、働いている教職員も変化していく環境の中で働くことになるため、少しでも負担が減るよう、しっかりと土台をつくった上で、現在の教育から小中一貫教育へ移行していただきたい。
- ・学年編成の枠組みと導入（1～4年生、5～7年生、8～9年など）
- ・小中一貫教育のよさは、小学校へも中学校籍の先生が教えに行けることで、教科の専門性を生かした授業ができることにあると思う。そんな体制は作れないか。
- ・「中1ギャップ」を防ぐため、6年生の段階で中学校の教科担任による授業を体験する。

### その他

- ・学校の校章や校歌など、大野町に住んでいる人または縁のある人に広くアイデアを募集する。
- ・部活動指導を完全に民間へ委託する。
- ・「チャイムの音で反応して切り替える」ことが有効な児童がたくさんいるので、チャイムは鳴らし

てほしい。

- ・移動手段や、集まる場所事前の打ち合わせなど、準備が難しいと考える。
- ・ぜひ分離型にして、人と人との往来のみできるようにしてほしい。
- ・小中一斉引き渡し訓練の実施
- ・異年齢集団の繋がりのある学校運営
- ・運動会、宿泊研修など学校行事を中心とする縦の繋がりのある学校運営
- ・某義務教育学校の行事時（運動会）、同日開催で小学部と中学部との会場が分かれていたため、兄弟がいらっしゃる保護者の移動が大変だった、との意見があった。9学年の子ども達が在籍する学校となるため、行事の際の保護者の動き等にも、今まで以上の配慮が必要であると感じた。
- ・保護者を教育する。子どもだけでなく保護者も教育をする必要がある。保護者の成長が子どもの成長にもつながるから。
- ・小中の理科、技能系の教科は、移動教室として別棟にまとめる。
- ・小中の教室は別棟とするが、職員室は1つにまとめる。
- ・保健室、音楽室は小中分離対応できるよう、2つ教室があるといい。
- ・高齢者福祉施設や幼児園等、共生社会の在り方づくり ※立地的にも教育的にも導入

## ■教職員の配置・制度

### 教職員の確保

- ・県内の義務教育学校の経験のある教職員を任用する。
- ・教育委員会に義務教育学校勤務経験者（教務主任・教頭等）の招聘
- ・数年前からの教職員の任用を、小中どちらも免許のある教職員にする。
- ・教諭の小・中校種免許取得者の確保（中学校免許所有者の配置）
- ・企画、運営に携わる人は、一般社会（企業）の人を入れ、常に改革し続けるようにしたい。社会に適応する人材を育てるのであれば、社会を知る人が要る。
- ・十分な教職員数を確保してほしい。（3）
  - 時間割編成で困らないため
  - どの学年でも学級事務や教材研究のための空き時間ができるようにするため
  - 十分な職員がいないと、中学校の教員が小学校へ指導に行くのは難しい。急な時間割変更が難しいし、年休や出張で休む職員がいた場合に、補充で入る教員が足りなくなることが考えられる。各クラスに副担任を付けるくらいの職員の確保が必要。
  - 絶対数を多くして、確実な人員確保の必要性が高い。
- ・教科の先生の人数確保
- ・開校の前にどの教員も小中両方の経験がないと、児童生徒との接し方が分からずトラブルになると考えます。
- ・準備期間中の教諭の加配（4）
  - 職員が準備に専念できる環境をつくるために、今の業務以上の事で先生方が疲弊してしまわないような方法を考えてほしい。

- 通常の業務に開校に関わる業務がプラスされるので、人員も加配してほしい。
- 開校前後の数年だけでも職員の数を増やし、フリーの先生を用意することで負担がなるべく少なくなるような配慮をしてほしい。

### 教職員の配置

- ・小学校でも免許教科での教科担任制を取ることができるような職員配置
- ・小中学校間での日中の移動をできる限り減らした教科担任制を考えると、令和11年度までに、小学校にも各教科の教員をできる限りまんべんなく配置し、各学校内での実施をお願いしたい。
- ・開校に向けて、教職に関わる職員だけでなく、様々な視点で考えられるような人材を配置できるとよい。
- ・教員不足が心配。時間割を組む時に小学校は小学校免許の先生、中学校は中学校免許を持っている先生と分けてほしい。

### 教科担任制度

- ・教科担任制の導入（13）

- 開校前から教科担任制を始めていく必要がある。各校に専門科目の教員をまんべんなく配置してほしい。
- 小学校においても、5・6年生の教科担任制を進めておく。校長間の共通理解と町費教科支援員の確保が必要。
- 中学校教員、小学校教員が移動し、教科担任制を一部で導入していく。（負担にはならないように）
- 小学校も教科担任制をもっと進めてほしい。
- 高学年は、教科担任制で。中学校の先生が小学校に教科指導できるとさらによいのではないか。
- 小学校4年生からできる限り実施
- 小中の専科教員の配置を段階的に行い、生徒が新しい環境に慣れることができるとよい。
- 小学校でも教科担任制を導入することに賛成。高学年の理科や算数、体育など、専科の先生が授業をすることで、教科担任制への抵抗感の減少や、小学校担任の負担の軽減になると思う。
- 少なくとも、音楽・体育・理科は、小学校から教科担任制にできるとよいと思う。
- 教科担任制は、技能教科や理科などに最小限に絞る。

- ・小学校での担任制は、担任の先生が常にいてくれる安心感や居心地のよい所属感があるという良さがあると思う。特に低学年のうちには、全教科、教科担任制にするのではなく、特定の教科からやるなど、段階を踏んで教科担任制にしていくことがよいと思う。中学校へのギャップは少なくなると思うが、日常の授業で児童を理解した上での個別支援などが難しく、低学力の児童にとっては、安心して学ぶ場になるかどうか課題だと思う。
- ・小中一貫校ということで小学校と中学校両方の教科を教えることになるのは大変と聞いた（教材研究の負担、小中で時間割が異なるため、時間管理、成績処理のクラスの多さ）。その負担を軽減するために、教員の数を増やしたり、小のみ、中のみを教えたりするなど考える必要があると思

う。

- ・教科担任制の授業のために自校に必要な教科の免許を持っている先生がいない場合は、各中学校区から該当する教科の先生に来てもらうことになると思うが、出張として取り扱う場合、派遣する側の学校の旅費の支出が増額することが課題である。
- ・教科担任制は、小中学校間でも行うことは可能なのか。
- ・教科担任制をこの段階で行うのはとてもよいと思うが、教員が移動して指導するという事なのか。

### その他の担任制度

- ・教科担任制の完全実施の前段階として、学級担任から学年担任制への移行も検討してほしい。各先生方の得手不得手が補い合える教員集団の元でこそ、互いに助け合って良くしていこうとする心情が育つと思う。
- ・1クラスを2人で担任してはどうか。(主・副) 1クラス、1担任だと漏れやいたらないところがあるので。(例：いじめ、不登校対応)
- ・チーム担任制
- ・小学校段階では体験型活動を取り入れた授業が多いが、中学校段階はより専門的で体験型活動が減ると考えられ、そのギャップに苦しむ児童生徒が一定数いるのではないかと。各クラスに担任・副担任を配置し、教員1人あたりの負担を減らす。習熟度別授業の導入。

### その他

- ・体育指導員や社協などの異業種に、最長2年間など、「出向」できる勤務形態をつくる。「生きて働く力」を、教師自身が身に付けられるよう、幅のある人材となる環境を整える。
- ・教職員（特に小学校の教諭への負担が大きい）の部活動参加は避けほしい。(放課後の教材研究、労働時間の問題)
- ・人も多くなるので、中学の部活動を小中両方とも先生が担当し、土日も部活動指導している学校もあると聞いた。
- ・教科の小中乗り入れ指導も考えられるが、教材研究等の煩雑さを考えると難しい面も。「教員の働き方改革」が叫ばれる昨今、児童生徒の面からだけでなく、教員の労働環境も視野に入れて考えたい。
- ・学校間の移動等で教員の負担が生じないようにしていただきたい。

## ■教育課程・カリキュラム・教科創設等

- ・教育課程の整理
- ・義務教育9年間を見据えたカリキュラム作成
- ・大きなズレはないと思うが、実施前には小学校同士や中学校同士のカリキュラムの見合わせは必要ではないか。特に中学校の技能教科は、単元の実施の時期や内容が学校の規模や生徒の特性に応じて、臨機応変に変化させているため。
- ・義務教育9年間を見据えたカリキュラム作成

- ・カリキュラムマネジメントへの対応。(2)

- 教科、行事などを含めた学校活動方針の徹底
- 学年及び学級編制、時間割、教職員配置
- 支援員及び加配関係を含めた教育支援の充実

- ・各小学校の特色を生かす教育課程を検討（特に、総合的な学習、地域との連携で）する。
- ・「ふるさと大野科」の創設。6校の総合的な学習と生活科を一体化した教科とし、前期課程から後期課程まで系統的にカリキュラムを作成し、STAM 教育の視点を取り入れた特色のある教科創設の準備をする。
- ・各学校の総合の時間の整備

## ■授業内容等

### 小・中の連携

- ・小学部と中学部の垣根を超えた学び合いができる時間があるとよい。中学部の生徒が小学部の児童に勉強を教えたり、活動と一緒にいたりする時間を作ることができるのも小中一貫校のメリットだと思う。また中学部の生徒が小学部の児童に授業を行うこともよいと思う。
- ・クラスの選択、授業の選択ができるとよい。できる子とできない子の差があるため、できる子はどんどん先の学年の勉強をさせて、苦手な子には前の学年の学習ができるようにできるとよい。イメージは飛び級制度や自由進度学習。

### 外部との連携

- ・教員以外との職種、社会人と関わる時間があるとよい。小学生の頃からいろんな人と関わり、将来に対する夢やビジョン、希望が持てるこどもを多くしていくため。
- ・技術系科目(体育、図工、音楽、英語)の外部の人との連携。大学期間やスポーツチームなどと連携をして外部指導の方に教えてもらえる時間を増やす。本物を実際に体験することでやりたい！もっと知りたい！などの気持ちが芽生えるから。
- ・保護者が講演会を行う。身近な人がどれだけ活躍しているか何を考えているのかメッセージを聞く時間を作るのもよい。こどもに親のことを知ってもらい、感謝を忘れないようにするため。

### 具体的な授業内容

- ・お金の学習。海外ではお金の教育をしているところもある。お金の価値や使い方、貯め方、増やし方など様々あると思うが小さい頃から指導する時間があるとよい。
- ・小1から中3まで総合的な英語学習プログラムを設立する。phonics 学習は、小1からスタートし、中3の段階で読み書きができ、さらに、Communication English を強化する。Native の ALT との交流・英会話のプログラムを活用することで、4技能を総合的に小1から中3までの段階的に一貫してつなげる英語学習プログラムが必要であると考えます。
- ・小1からの英語教育の実施

## その他

- ・オンラインによる授業を段階的に取り入れることで授業スタイルになれる。(無理な/不要な交流は避ける)

## ■学校間の交流・連携

- ・開校前に交流の機会をつくる (16)

- 総合的な学習で現在の小学校区の特徴を学び、交流するカリキュラムの作成
- 町内の小中学校で、お互いの学校でやっていることなどを交流する機会があるとよい。
- タブレットによる他校との交流(何かの発表をし合う、自己紹介を見せ合う、一緒に授業を受ける、休み時間につなげておいて話す等)を行い、その後、バスでお互いの学校を訪問し、その学校の特徴、伝統など交流し、親交を深めて、同じ学び舎での生活に移行していくことがよい。
- 他校との交流を増やし、こどもたちもスムーズに新しい学校に馴染めるような取組をしていきたい。
- 1校に集まった時、こどもたちが不応を起さず、馴染みやすいように配慮する必要がある。
- 開校の数年前から他校との交流を増やしたり、家庭学習や夏休みの課題、授業時数などを今まで以上に各校が同じ歩調で行ったりすることで、1校に集まった時、こどもたちが不応を起さず、馴染みやすいように配慮する必要がある。
- 開校に向けて必要と思われるものを実施していく。まずは、運動会や合唱等や授業で、一部の学年を交流させるところから考えてもよい。
- 統合前に小学校全体が集まって活動することがあってよい。昔、統合したばかりの小学校に勤務したことがあります。学校派閥というようなものが保護者も児童もあって揉めたことがある。
- 関ヶ原では、1つの学校となる前に2つの学校が盛んに交流したそう。どのように交流するかが課題。
- 各小学校と中学校が物理的に分離しており、日常的な交流や連携が難しいため、ICTを活用した合同授業・交流(オンラインで小中合同学習や発表)を行う。
- 小中の職員の授業交流、小学校間の児童交流
- 1、2年前から小中学校での交流を行い、よい人間関係を築けるとよい。新しい学校教育目標、スローガンの作成を、教員及び生徒会を中心に早めに交流しながら考えていきたい。
- 校舎は分離していても大野義務教育学校大野校・揖東校という形で同じ仲間の意識で交流事業を行いながらむかえられたらよい。
- 統合前に、町内の学年を一堂に集めて、レクリエーションを行うなどをして、少し交流をしておく、スタートがスムーズかと思う。
- 各校合同の交流会(1、2年前から開校時中3までの児童生徒対象に)

- 日程調整が中々難しいところはあると思うが、小学生が中学校に見学に行ったり、中学生との交流会等をしたりして、雰囲気を感じることができたらいいと思う。特に、低学年の子どもたちは、大きいお兄さんお姉さんと突然一緒に生活するとなると恐怖心を抱く子もいるかもしれないので、慣れておくことは大切かなあと思う。

・合同授業、授業見学 (5)

- 他校とオンラインによる合同授業
- 小学6年生が中学校へ行って1日過ごす日を創るなど、単学年で集まって交流会を持つことができるとうい。
- 6年生の中学校訪問を何度か行う。
- 高学年の児童が中学生の授業を見たり、参加したりする機会があるとよい。
- 小中間の授業参観。お互い、参考になる面が多々あるのでは。

・合同行事の実施 (3)

- 町民センターを利用した合同行事の実施 (移動はバス)
- 分離型小中一貫校では運動会を充実させてほしい。運動会を小学生と中学生が合同で行うことで、異年齢間の交流が促進され、年上の中学生がリーダーシップを発揮し、小学生をサポートすることで、双方にとって学びの機会となると思う。また、運動会を通じて学校全体に一体感が生まれ、小中9年間の連続した教育の一貫性を実感できる行事と考える。さらに、保護者にとっても、子どもたちの成長の過程を一度に見ることができ貴重な機会となり、家庭と学校のつながりが強まり、分離型であっても、合同の行事を通じて物理的な距離を越えた心理的な一体感を育むことができる点は、大きな魅力であると思う。
- 小中合同の行事があってもいいのでは。文化活動発表会、体育的行事等。

・9学年の縦割り活動

- 小中一貫のよさを生かして、1年生～9年生合同の活動が活発になるとよい。児童会と生徒会の連携により、縦割り運動会、文化祭、合唱祭などの行事や、行事に向けた取組を互いのアドバイスを基に進めるなど。

・大野中校区と揖東中校区でできる所から実施。

- a 6年生の合同修学旅行・5年生の合同藤橋研修の実施
- b 小学校の縦割り活動に中学生が参加。(1時間目に実施し、中学生は2時間目から中学校の授業へ)
- c オンラインによる始業式・終業式の実施。(中学校が配信)

・小中の相互理解が必要。

・学校同士、小中間の連携が必要。小学校は数も多いので、スムーズに進められるか。

## ■支援体制

- ・校内教育支援センターの設置。
- ・相談室の設置。
- ・特別な支援を必要とする児童生徒の居場所や小中が一か所に集中することへの支援体制の整備
- ・(校内教育支援センター、相談室) いずれも常駐職員の配置。
- ・「生徒指導＝主に問題行動対応」と「教育相談、特支コーディネーター＝主に不登校対応」の二人を専任として、途切れない支援を目指すと思う。
- ・特別支援コーディネーター(専門職)を複数置くことで、小中の連携を密にした支援ができるように思う。
- ・特別支援学級の交流を年間計画に入れる。
- ・特別支援及び他の支援及び医療機関との連携づくり
- ・発達障害、特別支援に対しての知識を深めること。支援の際に指導や支援の方法に差が生まれ、小学校や中学校、自分のクラスとほかのクラスと比較し、不満を持っている生徒や保護者が増えると思うから。
- ・個別の支援計画の統一。

## ■日課・学期制度

- ・各校、各学年の日課を統一する。(3)
  - 全学年 45 分授業が無理なら、小学生が 10 分の休み時間で中学生が 5 分休みなど、合わせてほしい。
  - 休み時間のとり方で調節して、異年齢でも同じ日課
  - 教科担任がスムーズに移動し、授業を開始できるような工夫
- ・文科省も小中 5 分短縮を検討しているので、この機会に小の授業時間を 40 分に申請し、午前中に 5 時間を確保できるようにし、午後から総合など特色のある学習や復習などができるようにする。
- ・「中 1 ギャップ」の緩和・解消について 小学 5 年生から授業時間を 50 分授業にするのは、児童の心の不安定につながると感じる。(授業時間の問題、休み時間の減少)
- ・学期制など、今すぐにもでも統一できるとよい。
- ・小学校と中学校の学期制を統一する。(4)
- ・学期制度を 2 学期に統一する。(7)
- ・運動会などの行事の実施期間を揃える。

## ■学用品・備品

- ・小学校に入学するときの、学用品などもそろえていく。
- ・制服を新しく作成(LGBTQ に配慮)し、TPO を学ぶためにも日常生活の中での着用を促したい。また、そのデザインに関わっては、各小学校の児童会、中学校の生徒会と一緒にアイデアを出したり、話し合ったりする場を設けてはどうか。
- ・各校の不要物の整理

- ・統一した時に、残す備品、破棄する備品の整理。または、共有となるものは、それまでの間、貸し借りもできるようにする。

## ■PTAの組織体制

- ・今まであるPTAの統合というより、新しい保護者会の組織をつくるイメージで進める。現在の町PTA連合会でアンケートを作成し、方法性を決める。
- ・全国規模のPTAではなく、大野町のこどもを見守る保護者の会を設置。(連携校実施の年からスタート)
- ・現学校のPTA会費をゼロにする。

## ■通学方法

- ・スクールバスの台数や経路の決定
- ・どこの学校に集めるのか。どのような通学方法にするのかが難しい。

## ■研修等

- ・義務教育学校についての理解、研修が必要。(8)
  - 義務教育学校についての教職員の研修が必要
  - 義務教育学校の先生方にお話を聞き、改善点を反映できるとよい。
  - 義務教育学校の先生方から、職員の業務についても話を聞いてみたい。
  - 義務教育学校では、どのように学習を進めているか、校舎はどうなっているのか等わからないことが多く、自分がこの学校で勤務することになるかもしれないと思うと、イメージがもてず不安がある。一度、実際に学習活動を行っている日の義務教育学校へ視察に行けるとありがたい。
  - 実際の現場(義務教育学校)の先生方の様子が知りたい。
  - 情報がまだ少なく不安があるので、義務教育学校の方と情報交流をしたり、実際に学習活動を行っているところを見学したりできるとありがたい。
  - 北方町のように、町内に複数の義務教育学校を設置した地域の取組などを参考にして、職員に研修を行ったり、そのカリキュラムなどを学ぶ場を設けたりと、新しい町の学校に対するアイデアや課題解決の方法も生まれやすくなると思う。
  - 学校職員、児童生徒の義務教育学校見学
- ・小中合同職員会、研修会の実施
- ・研修の積み上げが必要だと思います。私は、小学校の経験しかないため、中学校の様子や生徒への接し方に心配があります。何度も研修をして理解していく必要を感じます。
- ・児童から生徒への発達段階を十分知ったうえで対応することが必須。中学生の指導に長けた先生が小学校低学年を担当すると児童が不適応や過剰適応を起こしやすい等、日々のちょっとした対応方法や口調に配慮が必要だということを十分勉強してスタートすることが大切。

- ・義務教育学校勤務経験教諭の確保と他地域の義務教育学校での町内職員の研修勤務
- ・校長会、教頭会が先進地区の研修を行い、学んだことを町教育会で町教委、町に具申していく。

### ■校舎・教室・備品・設備等

- ・電子黒板の利用やタブレットを持ち歩くのではなく教室机上にタブレットを置いたままパスワード入力と共に自分のタブレットとして利活用できるようにしてはどうか。
- ・教育相談を行うための教育相談室各フロアに設置。
- ・各務原のように館内廊下もすべてエアコン設備があるとよい。

### ■その他

- ・児童の数が増えることで、校内支援委員会や問題行動などの児童の情報共有が難しくなるのではないかと感じた。
- ・この期間の学校の運営がどのように行われるのかのイメージがわからない。町民に対しても、教職員に対してもこの2年間の運営のしかたを、もっと具体的に示してもらわないと、混乱が生じる。まずは、教職員に対してきちんと理解を図ってもらわないと、地域や保護者から問い合わせがあった場合に、説明に困り、不信感につながるのではないか。
- ・人間関係の固定化が生徒指導上の問題の原因になりことが予想される。（日本教育心理学第66回総会発表会論文集 「施設分離型小中一貫校における児童生徒の社会性の課題に関する検討」）
- ・前に北学園で実習させていただいた際、義務教育学校の実態を見ることができたが、多様な学年との繋がりがある反面、小学校一年生と中学校3年生ではやはり学力、体力や体の作りも違うので、運動会などの行事やキャンペーンが難しそうだなと思った。また、やはり中学生がリーダーになるので、小学校高学年にどうリーダーを任せていくのかも難しいなと思った。
- ・こどもの発達段階への対応が難しそう。
- ・2028年度よりPTA総会時など定期的に保護者説明会を開催。

### 1.3.3 こどもたちのために必要なこと

#### ■人員配置

##### ・教員数の充実（17）

- 開校当初数年は、教員も児童生徒も環境に慣れておらず、不安定な学校運営になることが予想される。例えば中学校のように担任を持たない学年主任をおく、学年にフリーの先生をおくなど人を増やして、こどもたちをサポートする体制を検討してほしい。
- 人を育てるには、人が必要。支援の必要な児童生徒のためにも、授業や学級のことにも力を注ぎたいと願っている先生方のためにも、十分な人員（教員、支援員、SSS やその他の法律や心理の専門家等）の配置をお願いしたい。先生方にゆとりが生まれると、こどもたちも関わりたい先生に話を聞いてもらうことができるのではないかと思う。
- 環境が変化することで、こどもが不安に感じることも増える。不安を解消できるようスクールカウンセラーや統合前の教員を多く配置して、安心できる環境を用意できるようにしてほしい。
- 個別最適化された学習の提供のため
- 個別最適化の教育を進めるのであれば、今いる教員でまかなうのではなく、細分化に合わせた人員確保、配置をお願いしたい。
- 支援体制の枠組みよりも、その枠に使える人員を増員しないとそれに携わる教員への負担が問題になってくる。岐阜市の「小中一貫教育の意義と可能性」によると、様々な取り組みは教師側の負担が増えやすいと書かれているので、人数を多く配置することが理想的なサポートづくりにつながると思う。
- 教員の数を増やし、一人一人の負担を軽減すべきである。
- とにかく教員の数と質を確保すること。
- 教科担任制を9年生で行うのであれば、各教科担任の持ち時数が、1日3時間までとなるように教員を増やすようにしたい。
- 各学年に必ずフリーで入れる職員が学級数÷2当てられると、多くの目でこどもたちの活動を見届けることができるかと思う。
- 支援員を含めた、教職員の確保。
- 支援を必要とする児童が増え、今でさえそのような児童の対応当たる教員が足りていない。教員も児童生徒も安心して学習でき、楽しく登校できるように教員の数の見直しをお願いしたい。
- 特別支援学級の児童、生徒の実態や人数に合わせて、教職員の人数を配慮してほしい。
- 支援、指導が必要な児童に職員がつけるようにする。

- ・教職員・支援員の定期的な研修や教育や対応のスキルアップ。月1～2回の事例研究会←共通認識
- ・教員、支援員だけでなく、特別支援・心理・法律・警備関係の専門家も含めて充実した人材が集まった学校が開校されることを望む。職員の安心や心のゆとりは必ずこどもたちにプラスにはたらくと思う。せっかく新しい学校ができるので、こどもが「わくわくできる学校」「明日も通いたくなる学校」を実現できるとよい。

・ 支援員や相談員の十分な配置 (27)

- 教育支援対象児童生徒が多いことから、特別支援コーディネーターの業務負担を考慮し、3名ほど(1~3年で1名、4~6年で1名、7年~9年で1名)配置する。
- 300人近い教育支援委員会対象児童を特別支援コーディネーターが1人で把握するのは難しい。先を見通した支援が大切なので、学年で分担するのも難しい。
- 理想的なサポート体制として、各学年・各クラスに支援員の先生をつけてほしい。
- 全ての特別支援学級に、「担任+町支援員1名」の常時2名体制で指導が進められるよう、町支援員を配置する。
- 現在のきめ細かい支援が継続できるように支援員の確保。
- 相談員や支援員などサポートの先生を配置してほしい。
- 相談室でも学習を進めることができるように、教職員や支援員を配置。
- 相談室に専門のカウンセラーを配置。
- スクールカウンセラーの常駐。相談室対応の教員がいると、通常学級との連携が取りやすい。
- 不登校傾向の児童生徒が、安心して学ぶことのできる教室と専門的なスタッフを配置するとよい。
- 支援員の数を町内の学校で同じような配置にしてほしい。また、今後の学校でも支援員の数を豊富に確保し、多様な課題をもった子どもたちに、手厚い対応ができるようにしてもらいたい。それが保護者の願いでもあると思う。
- 支援員(実働できる)の数はたくさん必要
- 特別支援学級、相談室など、個別対応ができるような場を作っていただくと同時に、ただ場所を作るだけでなく、手厚いサポートが受けられるよう、人員配置にも力を入れてほしい。
- 支援員だけでなく特別支援や心理士など専門の方を配置し、充実した人材が集まった学校であってほしい。働く職員が安心して余裕を持つことが子ども達の安心安全につながると思う。
- それぞれの専門分野の先生方に常駐して頂き、色々な子どもたちが頼れる先生を見つけて、安心して登校できる環境をつくってほしい
- 不登校生徒、支援が必要な生徒への対応として、専門教諭の常時配置。
- 通級指導教室についても、複数教室・複数スタッフを配置し、より充実した指導を受けることができるよう考えてほしい。
- 特別支援学級、相談室、通級、適応教室など生徒一人一人へのサポートができる場所の確保は進みつつあると感じますが、人材や人員の確保は厳しい状況だと思います。
- 不登校生徒が安心して学べる教室と朝から終わりの会まで担当できる職員の配置
- 特別支援の教員の数は必ず増やさなければならない。現場の声を聞いて適切な人数を増やしてほしい。

- ・ 生徒指導事案がこじれた時や難しい保護者対応のために、生徒指導対応に精通した職員を置く。
- ・ 体育や音楽など専門的な指導者に入ってもらえるとよい。(水泳指導、合唱指導等で)

## ■支援体制等

### サポート体制の検討

- ・ こどもの数が増えてクラス替えができるようになることで、安心して学校に通える子もいる一方、環境の変化による精神的な負担が大きくなる子もいる。環境の変化に伴うこどもへのサポートについて、十分に考える必要がある。
- ・ 教科担任制の導入が増えることで、多くの先生に見守ってもらえる一方、かかわりが広く浅くなることが懸念される。こどもに寄り添える環境づくりが必要である。
- ・ 特性に応じたサポートの充実。教科担任制になると個への配慮が散漫にならないか心配。より多くの支援員の確保や、心理的な専門家の確保も必要。
- ・ 環境の変化に伴うこどもたちの身体的負担、精神的負担を考慮したサポート体制の充実。
- ・ 環境が大きく変わるので、新しい集団への適応に対して不安感をもつ生徒が増えると考えられる。SC、SSの可能な限りの毎日の配置や、ローテーション担任制（学級に副担任が入る）等の体制の整備など、児童生徒が安心して話せる機会が常に保証されているとよい。不登校児相生徒や特別な支援が必要な生徒が増える可能性があるため、特別な対応組織も必要かもしれない。
- ・ 合併したら、不適応を起こす児童が出てくることが予想される。クラス分けも、同じ学校からの人、先生も同じ学校からの人が身近にいるなど、配慮が必要。
- ・ 発達段階に差があるため、保健室登校受け入れ体制やカウンセラーの充実が必要。
- ・ 中1からのギャップが減るといいことではあるが、心機一転させ新しいスタートを切りたい生徒にとってはデメリットも感じる。不登校傾向の子や教室での過ごしにくさを感じる子たちへのサポートを充実させてほしい。
- ・ 居場所は大切だけど、孤立しすぎないような環境で、沢山の教員と関われるようなサポート体制がよい。
- ・ 相談室や特別支援の多様なプログラムを個々が選択して実践できる教室数と教材（プログラム）の準備があるとよい。
- ・ 南小学校はこどもたちのサポート体制がかなり手厚いと思うので、それを継続できるような体制があるとよい。
- ・ 現在の学校では、いじめなどを受けた弱者が教室外に出る形となり、不登校に繋がっている。そういった行為があった場合は、加害となる児童生徒を別の場所に移す仕組みをつくることで、弱者が安心して過ごせる居場所を確保できると考える。
- ・ 「こどもの居場所づくり」の線引きをどうするのかをしっかりと考える必要があると思います。特定の児童生徒に居場所を提供するために、それを取り囲む多くの児童生徒が我慢をしたり理不尽を感じたりするのは間違っていると思うため。
- ・ 大原則として、「学校は授業をするところ」で、居場所づくりは「ほほえみ」や「外部のフリースクール」との連携を考えていくべきだと思う。「不登校0」「居場所づくり」を強く押し出すと、責任感の強い担任ほどしんどくなると思う。
- ・ 不登校ゼロを目指すために、私たち教師と専門機関と連携を取り、不登校が生まれるメカニズムを検証したり、研究したりしていく必要がある。

- ・こどもの居場所づくりという側面では、福祉と教育のつながりを強くするとよい。分校から学ぶことは多くあると思う。

### 校内教育支援センター・適応指導教室の併設等

- ・校内教育支援センターの設置 (3)

- 校舎内に校内支援センター「ほほえみ教室」を2教室ほど開設し、町の心の相談員が常駐する。また、SCや臨床心理士など専門家を1名配置する。
- 専門教諭を常時配属し、SC、医療機関等との連携づくりをして不登校児童生徒を減らす。
- 小・中学生別々に新設。

- ・不登校児童が通える教室が必要 (6)

- 教室に入れにくい児童がいける部屋や、対応できる教員がいるとよいと思う。
- 不登校傾向のこども達が過ごす保健室以外の適応教室があるとよい。
- 職員室の近くに不登校傾向を示すこどもが、周りのこどもと接触せずに安心して登校できる教室がいくつかあるとよい。
- 不登校傾向や特別な支援を要する生徒が安心して入ることができる空間は必要だと考える。(個室となる場や人目を避けて入ることができる教室など)

- ・「ほほえみ教室」の併設 (4)

- 揖斐郡の「ほほえみ教室」などが併設されていると、保護者もこどもも安心して通える学校になるのではないかと。こどもケアができる場所が近いことが安心につながるのではないかと。
- 大野町としてのほほえみ教室を位置付けて、学校と連携していくことで、不登校の生徒に対しても、居場所になったりするのではないかと。
- 保護者が送迎しなくても、こどもが自分で気軽に学校の代わりに学ぶ場として選んでいける場所ができないか。

- ・せっかく各教室にエアコンが入っているので、夏休みこそ、普段学校に来られていない(教室に入っていない)こどもが、ちょっとでも学校という空間に馴染めるようになるとうい。しかし、先生達の働き改革(勤務時間・年休取得)などのこともあるので、例えばSC・SSが夏休みも勤務できる日をつくるとか、地域のボランティア先生(退職された教員・民生委員・公民館関係など)のような方と触れ合う場ができるとよいのではと考える。

### 学校外の居場所づくり

- ・学びの多様化学校の新設。(2)

- 不登校児童や不登校傾向児童、特別支援学級ではないが、特生の強い児童生徒のニーズに合わせた学習ができる学校を新設校と合わせて考える必要がある。現大野中や現大野小を使用して行うことも考えられる。

- ・各地区のふれあいセンターに不登校児童や支援が必要な児童生徒の居場所を設置する。ほほえみ教室のような場所が確保でき、保護者の送迎の負担軽減にもなる。設置するには、人員の確保が必要。

- ・不登校児童が保護者の送迎が無くても通えるような場所があるとよい。
- ・不登校のこどもたちが気軽に通うことができる学校を開校する学校とは別の場所に設置するとよいのではないかと思います。
- ・不登校や不登校傾向の児童生徒、教室へなかなか入れない児童生徒が通える支援室をできるだけ早く町に1ヶ所設置してほしい。支援が必要な生徒が増加しているが、校内の相談室では対応しきれなくなっている。郡のほほえみ教室は遠いため保護者の送迎ができず通えない。
- ・大野町に適応指導教室をつくってほしい。これは早急に検討をお願いしたい。池田町まで保護者の都合で送れない。
- ・不登校生徒等対応の適応指導教室（校内教育支援センターと校外教育支援センター（旧小中学校活用））設置
- ・各校区の小中学校にも支援センターがあると児童・生徒は通いやすいと感じるのではないと思う。
- ・心の教室や相談室などを、新しい学校から離れた場所（旧校舎等）に配備する。神戸町の不登校の児童のための「ばら菜ルーム」は、中学校内にあるため、他の生徒の視線が気になる、中学校の運用に配慮しなければいけない、等のデメリットを多く聞く。
- ・居場所をつくるために、フリースクールや放課後デイサービスとの連携も進めていくことで、家庭にいたままの生徒を減らせると思う。

### 特別支援学級・通級学級

- ・特別支援学級教室及び設備の充実（2）
  - 特別支援児童生徒の増加（通級等を含む）に対してPC設備等及び特別支援教育専門教諭を配置することで、個に応じて丁寧できめ細やかな指導支援につなげる。
- ・人によって必要とする回数は異なると思うが、もう少し通級の時間を確保できると、より手厚い支援が受けられる生徒が増えてよいと思う。現在は、通級指導をしてくださる先生が複数校勤務されているため、最短でも2週間に一度、長いと4週間に一度しか通級指導を受けることができていない
- ・特別な支援を要することも達がとても多い。特別支援学級で個別の支援が行き届くような体制になってほしい。
- ・特別支援学級についても、特別支援学級の担任一人あたりが受け持つ児童生徒の数を多くなりすぎないように配慮し、特性のある児童生徒が充実した教育を受け、力を付けていける学習環境となることを望む。

### 相談室・カウンセリングルーム等

- ・保健室がパンクしないように、授業に参加できないこどもたちの居場所づくり。
- ・個別な対応ができる相談体制、教員、部屋の確保。激増加配。
- ・保健室の充実（カウンセリングルームの兼用を意識して）
- ・相談室の充実（14）
  - 現在、特別支援学級や通級指導教室以外で、相談室を必要としている困り感のあるお子さんが増えている。ぜひ、相談員の必要数の確保を。
  - 常駐の職員を配置し、不登校気味児童への対応をしていただくといい。

- 相談室などの場所をつくって、不登校児童に対しての支援を徹底してほしい。
- 養護教諭だけでなく、必要な時に相談できるところがるとよい。
- 合併したら、不適応を起こす児童が出てくることが予想される。
- 1人になれる場所、そっとしておいてもらえる相談室などが必要。
- 保護者も相談しやすいカウンセリングルーム
- 相談室的な役割を果たす居場所が複数あるとよい。
- 相談室は2室設置する必要があると考える。(静かに過ごしたい児童生徒向けの仕切のある部屋と、他者と関りのもてる生徒児童や騒がしい児童生徒向け。)
- 教室では学習できないが学習したいという児童のための教室と、毎日の登校を第一目標とする児童の教室を分けたい。
- 様々なニーズに対応できるよう、相談室に利用できる小さな部屋をいくつか備えてほしい。
- 個別対応できるよう、ブースが必要
- 仕切をつくり、教室に入れなかったとしても、学習に取り組める環境があるとよい。

- ・海外の学校のように、相談室やカウンセリングルームを、用途によって明るい色にして雰囲気明るくしたり、イラストを描いた部屋にしたり、ボルタリングなどの遊び場を設置したりすると、不登校のこどもも馴染みやすかったり、一般のこどもにそういった部屋へ通う生徒との接点ができたりしてよいのではないかと思う。
- ・生徒に相談に乗ってほしいと言われたけど時間が取れないことがあったので、気軽に相談ができる場所があったり、教育相談が月1程度とれるような時間的余裕があったりするとよい。
- ・話せる空間づくり。教員、大人が話しやすい雰囲気を作る、場を整える。(リラックスできる場やクールダウンできる場所を作る)
- ・フリースペースの設置…不登校児童、生徒が安心して過ごせる居場所としてリラックスできる空間の設置。(大野町ならではの素材を使ってベンチなど特色を出す。)
- ・仕切りなどを使って個人で落ち着ける場所をつくる。
- ・明るく開かれた図書館兼自習室のような場所に目隠しのある机が沢山あると居場所になるのでは。
- ・集団の中での学びに不適応を起こし、個別なら学習できるお子さんも増えている。図書館のような個別の仕切りのある学習室があるとよい。
- ・不登校傾向の児童が多くなっていると思うので、そのようなこども達が心を休めることができるような場所もあると、どの子も安心して学校生活を送れるようになるのかなあと思う。
- ・教室に入りたくてもどうしても、教室に入れたい児童生徒のための登校できる教室を相談室とは別に設置。場所と人員確保。特別支援に理解のある方。
- ・教室に入れたい生徒が留まるための教室やスペースを確保していただきたい。
- ・保健室や相談室の他にもこどもが安心してすごせる教室(空き教室)があるとよいのではないかと思う。
- ・相談室を始めとする別室対応の在り方も数年計画で揃えておくと、移行がスムーズになると思う。
- ・こどもが学校に行きたいと思える居場所づくり

### 日本語指導・保護者対応

- ・日本語指導が必要な児童生徒のための教室を1つ開設し、日本語指導の担当職員を配置する。
- ・日本語指導教室は、1つの教室に5～7名ほどのスタッフがいて、毎日1・2時間その教室で日本語を学び、その後、自分の学級で通常の授業を受けるというシステムがつけるとよい。また、その教室には、日本語指導の様々な教材教具があり、その児童生徒の実態に応じた日本語指導を受けることができるという。
- ・外国人児童生徒のこども達が、共生社会の一員として能力を伸ばし、未来を切り拓くことができるよう日本語指導をはじめとした教育の充実に向けたサポートが今後も必要である。
- ・外国人児童生徒及び保護者対応

### 放課後の居場所づくり

- ・学童教室の充実
- ・学童施設は、既存の学校施設の使用がよいか、新校舎に隣接して建設するのがよいか、予算との兼ね合いになる。
- ・放課後は、ふれあいセンターを放課後デイサービスの場所とする。

### ICTを活用した学習環境の整備

- ・ICT インフラを整備し、学校に来ることが出来なくても学習できるように、オンライン授業や教材配信などを行う。
- ・家庭学習やオンライン学習など、ICTを活用して、学校に登校できない日であっても学びが途切れない仕組みを整える。
- ・リモート授業の実施

### 地域との連携

- ・地域人材を積極的に活用する。(開かれた学校にするために)
- ・地域でこれまで運営されてきた「こども会」、ふれあいセンターごとに計画されて「〇〇教室」などを今後どのようにしていくのか、大野中校区、揖東中校区での取組の違いなど、学校だけでなく地域全体の改変が必要だと考える。大野町全体のイノベーションと考え、議会議員、区長、NPO 団体など多くの方の協力を得て義務教育学校スタートに向けて準備を進めていく必要がある。様々な考え(意見)を集約して、策を進めていくには、義務教育学校設立、運営経験者の強いリーダーシップがないとできないと思う。成功事例が、こども、保護者、地域の方を説得する力になるのではないかと。
- ・現在各小学校校区で区割りされている地域参画について共通理解が必要となる。
- ・各地区のふれあいセンターと連携し、地域と一体となった見守り活動
- ・これまで各学校区の付近で遊んでいたこどもたちのことを考えると、学校は一つの場所でよいかもしれないが、遊び場はこどもたちの姿が多く見られる。小学校跡地にボールなどが使用できるグラウンド等の遊び場を、中学校跡地に公園を整備するなどして、放課後の居場所も整備する必要があるのではないかと。

## その他

- ・不登校ゼロへの取り組みについて、やはり人数が少ないと、その分人間関係が固定化してしまったり、自分の本当に気の合う子が見つからなかったりという部分が難しいと思う。統廃合により、この問題が解決する一方、より多くの人達との関わり方や、仲良くなる機会を沢山作ってあげられるとよい。
- ・いじめを苦に転向を余儀なくされた場合、町内に学びの場が1校しかない町外へ転校するしかない。できれば町内に学びの場は2校確保したい。
- ・個人的には「不登校0」のために大事なことは、保護者の方の理解が何より必要だと思う。

- 「発達障害」への理解を深め、必要があればとにかく早い年齢で専門的なアドバイスをもらう。
- コロナ禍や夏休み明けの「自殺予防」のため、「無理はしない・させない」という言葉が先行しすぎているように思う。心のケアは必要だが、同時に「長期間学ばないことのリスク」は保護者に伝える必要がある。
  - 例えば、これらについて、「小学校の低学年の保護者」に対して、「中学校の生徒指導や進路指導担当」が話をする、というような連携ができるように思う。
  - 幼稚園・保育園の年長さん＝就学時検診のころから、保護者向けの働きかけや、幼小の連携があるとよいと思う

## ■運営体制

### 少人数指導・個別指導

- ・様々な地域から集まって来るものの、各学校20人前後だと思う。であれば、1学級の人数が過多にならず、少人数でこどもの活動が十分に行えるように配慮をお願いしたい。
- ・個別最適化された学習の提供について、少人数指導の環境
- ・少人数指導の充実

### 教科担任制・チーム担任制等

- ・教科担任制の導入。1年生から教科担任制を導入し、小中の免許を大いに活用した教科指導を実現する。
- ・算数や必要な教科について教科担任制や少人数指導ができるようにしてほしい。(2)
- ・チーム担任制の導入。例えば1～4年生、5～7年生、8・9年生とした場合、3つのチームの中で、毎日または1か月毎に担任が入れ替わることで、全職員で全児童生徒をみる意識を高める。
- ・現状の職員構成なら、学級担任制ではなく学年担任制にした方がよい。
- ・教科担任制の導入にあたっては、チームとして「これだけは」という部分の共通理解と共通行動は、さらに重要となる。関わる教員が増えることで多様な視点からの指導が可能になる一方、指導内容にばらつきが生じるとこどもの混乱や不信感につながるおそれがあるため。
- ・小学校段階での教科担任制は、児童が悩みや困り感を相談できるのかと疑問に感じた。複数の教科を受け持つことで児童の実態把握につながると考えられるため、小学校段階での教科担任制は必要がないのでは。また小学校低学年の担任が中学生の授業をもつとなると、教材研究や授業の仕

方で困ることもあると感じた。教科担任制をとるにしても、同じ学年間や1～3年、4～6年、7～9年のように近い学年を交換するような形で行うことで教員の負担が減るようにしてほしい。

- ・教科担任制になると、担任との関りが減るので、児童が悩みを話せる時間が少なくなると思う。担任以外で、安心して話すことができる先生がいてくれるとよい。担任の空き時間を増やすことで、空き時間に児童のフォローや教育相談の時間に充てることができる。
- ・SE、SS、教育相談担当など、授業中、こどもに直接かかわることができる体制の更なる強化。(担任の悩みを聞いてもらう、児童理解を更に深めるという意味でも)

### 教員の働き方

- ・働きやすい職場にするために、町費の教科指導員を積極的に活用できるようにして、担任の授業負担を軽減することで、担任が児童生徒にきめ細やかな対応ができるようにする。
- ・前期課程と後期課程で教科担任の交流を行うと生徒にとっても安心感につながると思う。

### 教員の質

- ・9年間を見越して児童生徒を受け入れるのであれば、教員の人数確保はもちろん、指導力や授業力など資質の充実は必須である。共通理解、共通行動のための職員間の意思疎通の在り方や校内でのルールづくり、安心安全な運営のために必要な組織など、運営に関わる事前に考えられる諸問題への対策を、現在既に始動している、北方学園や上石津などの県内や県外の義務教育学校をモデルにし、実施前に運営の在り方を密に詰めておかなければいけないと考える。ワンマンにならない、チームで動く運営の確立が絶対である。

### 備品・制度等

- ・デジタル教材の充実
- ・タブレットは、町の貸与ではなく、文房具のひとつとして入学時に学校指定のものを個人購入し、町が購入代の補助とメンテナンスをする形にしてはどうか。もっと自分の責任で大切に使用してほしいと思うから。
- ・こどもたちがタブレットで危険なこと(「リストカット 痛くない場所」「OD 安い薬」など)の検索をした時に、学校へ連絡してもらえらる制度があるとよい。早くSOSに気付ける。
- ・2期制がよい。(2)

- 3期制だと成績を3回つけることになり、教員の教材研究や授業への取り組みへの時間が割けなくなってしまう。また、1つの期間がとても短いため、どうしても少ない判断材料で成績を付けなければならない。働き方改革の点からも、2期制がよいと思う。

- ・制服もブレザーなどの手ごろなもので、買い替えたり揃えたり保護者の負担のないものになるとよい。そもそも何が必要で何をそろえるべきなのか見直す必要がある。
- ・登校時間を選択できるフレックス制度を導入することで、児童生徒が自分のペースで学校生活を送ることができる環境をつくる。

## ■通学

- ・安全な登下校手段の確保。(町バスの使用と岐阜バスとの連携)
- ・登下校にかかる時間が長くなると、夏場の熱中症はもちろん、集合時間が朝早くなるなど、体調面での心配がある。スクールバスなどの導入も検討してほしい。
- ・スクールバスの導入。通学距離が遠くなる児童生徒のため。
- ・揖東中校区の端から大野中校区の端となるとかなりの距離だと思うので、通学に関わる方法はしっかり吟味する必要があると思う。(熱中症、野生動物、事件、事故など)
- ・通学の距離に関わって、遠い距離の児童生徒が疲弊しないような配慮が必要である。
- ・登校時に必要となるスクールバスや通学路の整理。
- ・登下校の安全確保。スクールバスは、日程が変更したときや、生徒が確実にバスに乗ったか(連絡はあるか)の確認と見届けを確実に行っていきたい。地域や保護者の方にご協力いただき、安全な通学路のための調査を行うと思うが、車が追突してくるなどの事故が多いことを考えると、スクールゾーンを定めたり、交通規制を行ったりといった整備なども必要だと思う。
- ・小学生の自転車登校の許可があるとよいのでは？

## ■校舎・施設環境

- ・校舎内は明るく開放感が感じられることが大切。
- ・できるだけオープンな教室で、教室、廊下など様々な場所に学習できる環境があるとよい。ホワイトボードで移動が自由にできるとよい。
- ・学年ごとにフロアを分ける。小1と中3など、年齢差のある児童生徒が同じフロアで施設・設備等を使用することによる心理的負担が大きいことが想定されるため。
- ・運動場の拡大
- ・不審者対策、訪問者対応策
  - 施錠や開け閉めが簡単に出来る(暗証番号やリモートでも可能ならばなおよい)校門設備と学校への出入口の場所とフェンスの検討
  - カメラ付きインターホン
  - 侵入が分かるように防犯カメラやセンサー
  - 警報装置
  - 教室の内側から施錠可能な出入口の引き戸
  - 防犯、防災強化ガラス
  - 緊急時通報装置(児童でも使用可能な通報手段)
  - さすまた
  - 不審者対応器具
- ・大阪の池田小であった事件を考えると、学校敷地を囲う高いフェンスや壁があったほうがよいと思う。出入りのできる入口は1つか2つ。インターホンで鳴らして、職員室で鍵の開け閉めを可能にするなど、安全面は大阪の学校を参考に考えてはどうかと思う。
- ・ワークスペース、リラックス出来る図書室、読書スペースや机、いす。

- ・運動場の樹木、花壇、畑、低学年用植木鉢スペースと水やり設備
- ・運落ち葉や土砂が詰まりにくい手洗い場の設置場所と、落葉と日光を防ぐ屋根か覆いの設備の検討
- ・植栽種類と落葉樹木の検討
- ・安全かつ体力向上やや仲間づくりにつながる遊具や器具
- ・熱中症を防ぐための日よけ（常設日よけ）日陰が作れる樹木スペース
- ・保健室は小学部で1つ、中学部で1つは欲しい。出来れば部屋も分けて。求められているものが大きく違うため。
- ・保健室内か、保健室に近い場所に、シャワー室を設けてはどうか（こどもが怪我したと時に傷口を洗うためなどに使用するため）
- ・給食ワゴン車運搬のためのダムウエダーの他に、エレベーター（歩行の困難なこどもや先生のために）を設けてはどうか。
- ・熱中症対策や感染症対応の充実。(2)
  - 屋内運動場（プールを新設するのであれば屋内プール）の冷暖房完備。
  - 保健室を2室設置し、小・中学生対応の養護教諭を分けて2名で対応。
- ・他地域や国とのグローバルな交流できるICT設備のある特別教室及び特別活動学習の位置づけ。
- ・災害時の緊急避難場所の充実（大野町全域対象となる）

## ■その他

### 学校再編の検討について

- ・ソフト面で、実態や今後の事情を踏まえ、大野町は、「どんなこども達を育成したい」のかを明確にする必要がある。
- ・実際に動き出す時には方向性が定まっていて、こどもたちも見通しをもって日々を送ることができるよう、開校を迎えるまでに、職員も見通しをもったりシステムを知ったりする機会を設けて備えていけるとよい。
- ・学校が楽しい！ワクワクする！という学校を作らなければいけない。今までのように教え込み型、前向き一斉授業を脱却し、こどもも対話をしながら学校づくりをしていかなければいけない。誰のための学校かを考えていけるとよい。
- ・小中学校一貫教育で、小中との連携で同じ教育目標のもと共に歩んでいこうとする環境があれば、こども達や教師にとっても大変ありがたいことだと思った。また、保護者の方にも理解いただける内容であればより教育を得られると思った。
- ・小中の教師の方の連携も大切にすることで、小学校中学校お互いに協力し合っでこどもを成長させていこうとする環境を作りやすくなるが大変よいことであると感じた。
- ・担任制や班活動、一斉授業などそもそも長く続いている学校教育そのもののあり方を考える時期に来ている。義務教育校への転換を機に思い切った学校改革ができるとよい。

### 授業について

- ・児童生徒が企画、立案、運営する「楽しい」行事（運動会に変わる文化祭？）を仕組むことで、自己有用感を高める機会をつくる。
- ・リモート授業の実施
- ・スクールバス運用が前提であれば、プールは「ゆーみんぐ」を利用し、年間を通して水泳の授業を学年で振り分けてはどうかと思う。

### 交流について

- ・交流の場の位置付け…ともに行う学校行事（宿泊研修・校外学習・運動会など）
- ・6年生から7年生にかけてシームレスで行うことは大きな抵抗をなくすことにつながると思う。前期課程と後期課程の枠はあるかと思いますが、その枠を超えた交流活動が運営できるとよいかと思う。

### 卒業式、入学式について

- ・6年生の卒業式、中学1年生の入学式を廃止にするか残すかについてよく考えたい。
- ・こどもたちは「区切り」を意識することで成長していくと思う。義務教育学校になっても、「小学校を卒業した」という意識は持たせたい。

### 廃校舎の利用

- ・各学校の体育館を可能な限り残し、社会体育で活用できるようにすると生涯スポーツにつながると思う。

### 1.3.4 自由記入

#### ■統廃合に向けた意見・要望等

<p>・これまでの会合等、統合に向けて見直しを進めていく。</p> <p>町教育会の組織、会合</p> <p>町の各種会合やイベントへの校長の参加（校長会の充て職）</p>
<p>・校舎がバラバラの状態であることは少ないと思うが、まずは児童の交流、そして教師の交流を通して、統一できることを増やし、義務教育学校になったときに安心してスムーズに開始できるような準備を行うことが大切であると思う。</p>
<p>・R13開校までのさらに詳細なマイルストーンがほしい。箱ものを改修するという対応ではなく、0から作っていくということで、これから1年ごと何をやっていくかを明確にしていくと、果たして間に合うのかと不安になる。壮大なプロジェクトに対して、住民感情等を上手にまとめ上げられた町長はじめ町行政の皆さんには頭の下がる思い。ここまでは計画通りかと思われる。焦ることなく時間をかけてやり遂げたい。が、児童生徒の少子化は待ったなしであることも事実。難しい。</p>
<p>・校舎の外観から、こどもたちがわくわくするような校舎になるとよいと思う。全国どこにでもあるようなデザインではなく、こどもが自慢できるような外観、校内も明るく、教職員も務めていることを自慢できる学校ができるとうい願っています。ただし、掃除のしやすいことも大きな条件だと思う。</p>
<p>・2つの学校が一つになる時を経験したことがあるが、2年間かけて交流を徐々に増やし、時間も半日から1日と増やしていった。使っている教材、道具など様々な面で気にする児童はとても気にしているので、一緒になった時にそんなに違いのないようにしていく工夫が大切だと思った。</p>
<p>・地域クラブとの連携を図り、案内などを1年生から配れるとうい。小学校でのクラブ活動と地域クラブがタイアップできると中学からの移行がスムーズになり、スポーツの活性化につながると思う。</p>
<p>・学校で過ごす服装をどうするか検討が必要。</p>
<p>・最近、どこの小学校でも授業中に教室にいられない子がいて、担任の先生が疲弊する、という話をよく聞く。（しかも年々増えている？）。そんな中で「7年生」「4年生」の先生によるフォローがますます必要になってきているように思う。義務教育学校になることによって、これらのスタッフが減ってしまうことがないように、どの学年がどう大変になっても、みんなで支え合える体制を作ってほしい。</p>
<p>・以前、新聞に「ただ単に義務教育学校にすればいいということではない。何を売りにして義務教育学校にしたのが明確でないといけない。」とありました。大野町のセールスポイントは何になるのか。</p>
<p>・義務教育学校となった時の通学手段はどのようになるのか。</p>
<p>・大野町の学校再編に思うこと</p> <p>・魅力的な町・大野町にとって地域創生の肝は教育であると考え。R6年度発表の「住みやすい街ランキング」は圏外から急浮上し、住みやすい町としての認知が高まっている。</p>

条件さえ整えば、大野町は子育てに手厚い町として認知され、今後人口増加につながる可能性もある。(町の未来構想は?)

・保護者目線で考えたときに、児童生徒数が1000人を越えるような義務教育学校に魅力を感じ自分のこどもを通わせたいと思うのか疑問。不登校児童生徒の増加や特別な支援を必要とする児童生徒数が急増する中で働き方改革を推進しつつ「誰一人取り残さない教育」を十分に保証することができるのだろうか。(大規模な学校で学ぶ我が子より小中規模の学校でじっくり見てもらえる環境の方が安心できるのでは?)

・小規模な学校であれば解決できていたことが、大規模化したことにより難しくなる場合がある。義務教育学校1校を目指すのではなく、大野町校区、揖東中校区にそれぞれ小中連携校(別校舎型)に再編してはどうか

#### 【理由】

・町に1校しかない、いじめなどで転校を余儀なくされた場合、町内に受け入れ校がなくなる。

・管理職の立場からすると、いじめや不登校問題、生徒指導、虐待問題など今後さらに複雑化する社会において、学校希望の拡大化は学校経営上のリスクが大きすぎる。

・町内に中学校校長2名、小学校校長2名が維持できる。(町校長会が成立する。小中校長会にそれぞれ参加できる。)

・義務教育学校のよさを十分に発揮できるか否かは、義務教育学校の適正規模を考えた方がよいのではないだろうか。義務教育学校再編は児童生徒よし、保護者よし、教職員よしの「三方よし」の事業となるのか。北方の学校再編事業では、学校の独自性が失われ、教育委員会附属学校のようになっていった感じがしてならない。

・廃校となる学校の利用価値を見だし、地域の活性化につながるとよいと思います。例えば、廃校で夏まつりを行う際、元校区を越えた大野町民に発信して交流するなど。

・統合後の廃校となる学校は、それ以降どのように活用されるのか?

・廃校になった旧式の校舎をどのように利用するのも検討するとよい。

例として、ホテルとして使用する自治体もある。(維持費など問題も生まれるだろうが)

・南こども園に統合し、南こども園の場所に建設すると聞いたが、義務教育学校とこども園の連携を考えると新設校の建設場所でもよかったのではないかと思った。

### ■義務教育学校に向けた研修

・義務教育学校について、実際の学校の様子など分からないことがまだ多いので、実際に近隣の義務教育学校に見学に行く機会や、務めた経験のある先生方のお話を聞く機会があるといいと思う。

・近隣市町村では先に義務教育学校を開校している所も多くある。私自身、どのように学習を進めているか、校舎はどうなっているのか等わからないことが多いので、一度みなさんで見に行く機会を設けていただけるとうれしい。例えば、一日休みにして、上石津、根尾、桑原、北南学園、白川郷等に職員を分けて派遣し、一日を通じてどのように生活しているのか見てみたい。

- ・説明だけでは情報が少なく、判断ができないと感じた。また、学校で実際に働く先生方がイメージをもつためにも、県内の義務教育学校の見学に行きたいと感じた。大野町の近くには、北方町の北学園や南学園、岐大付属、根尾学園などがあり、町教委の方だけでなく、現場の先生も見学することが判断材料や実際に運営していくときに必要かと思う。
- ・義務教育学校について分からないことが多く、小学校で教科担任制になることに不安がある。研修の機会をとってもらえるとありがたい。

## ■予算について

- ・多くのことを記入させていただきましたが、大変多額の費用が必要になってくると思う。財源の確保については、クラウドファンディングなどを利用できるのか。
- ・資金面では、クラウドファンディングでの学校備品購入もあってもよいかと考える。
- ・学校予算について。保護者の負担を減らすためにも、用紙などの消耗品は、町の予算ですべて購入できるような予算を確保してほしい。保護者には、子どもたちが使用する教材（一人一人に渡す物品）の負担のみにしていけることが理想。

## ■北学園に関する意見

- ・先行実施した北方学圏構想を経験してきた中で感じたこと。
  - \* 北方は行政区が非常にコンパクトで岐阜県 1 面積が狭い町であった。円鏡寺の門前町（商人の町）として栄えた伝統は色薄くなり、県営住宅（ハイタウン）や岐阜市へのアクセスの良さを背景に少ない土地を最大限に利活用することで人を呼び込み人口減少に歯止めをかけている。古きものは姿を消し、次々に新たな住宅や生活を支える公共の交通手段、大型商用施設が建設され、住みたい街ランキングでは毎年 1 位になっている。公立の小中学校は従来 1 中、3 小であったが、北方小学校、北方西小学校の老朽化とハイタウン北方（西小校区）の児童生徒の減少もあり、北方学圏構想により 2 つの義務教育学校に再編した。（北学園 1500 人規模、南学園 500 人規模）この学圏構想により長年の懸案事項であった給食センターの移設、町立幼稚園の老朽化問題も一気に解決する大規模な学校再編構想であった。北方は土地柄もともと人の出入りが多く、旧商店街の空き家問題や農家の後継ぎ不足による土地問題も抱えていたと思われる。
  - \* 北学園は北方中学校をベースに北方小と北方西小学校がくっついた中学校気質が色濃く残る学園、一方南学園は北方南小学校の校舎を増築し、南小校区の中学生が通うようになったのでどちらかという小学校気質が色濃く残る学圏であった。もともとベースがあったところにうまく再編した形となった。大野町の新規に義務教育学校を再編するのと大きく違う点は「ベース」があるかないかだと感じた。
  - \* 学園スタート時は各市町から視察が次々と訪れ、教育委員会や学校はその都度参加した。負担は相当なものであった。2 年目には旧西小の体育館を改築し、学びの多様化学校（北学園分教室）をスタートしたことで、学びの多様化学校への視察対応にも追われた。
  - \* 各種調査や指導要録、通知表などの新規作成や対応に追われ、第 1 教頭は膨大な人数の職員調書を作成、他の教頭は非常勤講師などの具体的な計画作成、教務主任は時間割作成

に膨大な時間と労力を費やすことになった。

\* 小規模な組織体制に慣れていた小学校の先生方は大規模化したことで生じる会議や打ち合わせなどに翻弄され、毎日夜遅くまで残って仕事をする職員が多く発生することになった。それまで小学校では7時にはほぼ帰宅できていた職員が帰れなくなった。

\* 各種行事や教育委員会がパンフレットにうたった新規行事（立志の会など）今までやったことがない行事には認識がズレ、周知徹底するに至らず、校長の方針とズレたものもあった。

\* 義務教育学校の特色を出すための英語・ICT・新規教科「北方科」は義務教育学校の立ち上げに先行して取組んだものの、教育委員会を交えた会議や成果報告会など教員の負担増となった。また、北方科は教科としたことにより評価評定を付けることになった。成績の付けたかも担任の先生方からすると不明確なままであったので、担任は苦勞していた。

あまりよい記憶はないが、こうした過去の記憶が時間と共に薄れていく中で北方学園構想が「普通」となっていくころまでにはまだまだ年月がかかると思う。

・北学園の保護者にお聞きすると、多くの保護者が小学校6年生の卒業式が無くなったことに対して嘆いてみえた。

・北学園の理科教員に話を聞いた際に、小学校担任をしているのにも関わらず、教科担任制の名のもと、中学生の理科を同時にもつことになり、準備片付け、教材研究がものすごく時間がかかり大変であるとおっしゃってみえた。

## ■その他の提案

・夏休みを8月31日までにし、9月の最初の週は午前中で帰宅させるのはどうか？今後ますます気温上昇が見込まれ、登下校の心配もある。9月も暑い、暑い時期になるべく家庭で過ごせるようにしたい。

・運動会、体育大会は、年度当初大変であるが、5月の初旬に行いたい。今後の暑さを考えると、大変恐怖。少しでも熱中症のリスクを抑えたい。

・色々な要求をされる地域の方や保護者対応に心を病む職員が出ないようにスクールロイヤーの常勤がいるとよい。

## ■期待の声等

・新しい校舎で働けることを楽しみにしています。

・教職員の激務なしに、こどもたちが義務教育学校への移行を楽しみにできるとよいです。

・いろいろな立場の方の「やってみたい！」を詰め込んで、素晴らしい学校ができれば本当に素敵です。

まずは、みなさんの夢や理想を語ってみて、実現に向かうことができればよいと思います。

・大野町は、部活動の地域化が進んでいることもあり、非常に働きやすい環境です。春休みの長期化についても積極的に動いてくださっている。

義務教育育学校についても現場の声を反映させていただくことを期待します。

北学園のうわさはよくありません。保護者にも、教員にも。宜しくお願いします。

- ・部活動の地域移行化の際もそうでしたが、いつも丁寧に学校職員の思いや意見を汲み上げてくださってありがとうございます。膨大な量のお仕事をしていただきながら、私たち現場の職員にも心を配ってくださることに感謝しています。学校でも何かご協力できることがあれば、また協力させてください。